

Childline Annual Report 2021

2021 チャイルドライン年次報告



チャイルドラインのミッション

子どもの権利条約の理念に基づき、
子どもの「声」を受けとめることで、子どもがありのまま安心してできる心の居場所を作ります。
また、受けとめた「声」を社会に発信し、子どもが生きやすい社会を目指します。

チャイルドラインにおいて、子ども自身の声を「聴くこと」と、その声に基づいて「社会発信すること」とは、車の両輪です。一人ひとりの子どもの声を、受け手が子どもの気持ちに寄り添い、ありのままを受けとめることとなります。つまり、その声をどんな気持ち、どんな内容で受けとめるかは、受け手次第ということとなります。あくまでも主観的です。愚痴があれば、訴えがあれば、何気ない会話もあります。匿名性を前提としたチャイルドラインは、一人ひとりの子どもに個別にお返しすることはできません。でも、その実感をたくさん集めることで、客観性が生まれます。

子どもは社会の写し絵と言われます。それらの子どもの後ろにある社会の有り様を子どもの目線とおとなの責任で社会に返していく。そういった意味で、子どもの代弁者となることが、私たちチャイルドラインの使命と考えています。

チャイルドラインを支えてくださっている皆様に心より感謝を申し上げますとともに、今後も子どもたちのためにご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

2021 チャイルドライン年次報告 目次

チャイルドラインからの提言 2021	1
チャイルドラインにおける『子どもの権利条約』の意味	4
チャイルドラインとは	5
「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」流行による子どもたちへの影響	8
子どもが気持ちを書き込む場 つぶやく	12
データから見える子どもの状況	14
子どもへの広報	30
チャイルドライン実施体制と運営	33
チャイルドライン支援議員連盟	36
パブリシティ	37
チャイルドライン支援センター	38
2020 発行物紹介	39
ご支援・ご協力一覧	40
編集後記	

チャイルドラインからの提言 2021

チャイルドラインから見える子どもの状況

～愛着形成は、子どもたちが社会的な「おとな」になるための全ての大本!～

子どもたちは、なぜキャラを演じなければならないのでしょうか?「自分とは何か?」を探る思春期には、集団の中での立ち位置を測ってきたように思います。第1 反抗期の失敗が第2 反抗期への宿題となり、その後の人生の大半に影響し「自分探し」の長い旅が始まります。自分の立ち位置を自ら決めることによって少なくとも否定されない、排除されないということなのでしょうか。それ以外の価値観がなければ、子どもたちにとっては、日常的につらい現実となります。今の子どもたちからのアクセスで感じることは、自己肯定感の低さでくることができません。「自己否定感」そのものです。

ありのままの自分でいる(川崎市子どもの権利条例づくりの中で子どもたちから発信された想い)ことは難しいと、子どもたちのみならずおとなにとっても多くの方が感じているのではないのでしょうか。私たちは、他者や自分とどのように折り合いをつけてきたのでしょうか? SNS 等では「承認欲求」の嵐です。誰かに聴いてもらいたい、(否定されず)認めてもらいたい、つながりたい、それはチャイルドラインにアクセスする動機にもなるのでしょうか。

その大本になっていると考えているのが「愛着形成」です。愛着とは、子どもが特定の他者に対して持つ情愛的な絆のことです(John Bowlby)。愛着の対象である他者(多くは母親だが、そうでなくてもよい)との信頼関係を基にその他の他者との関係性を築いていきます。その安全基地をつくりきれない場合、自分に向かえば自暴自棄、外に向かえば反社会的な傾向になるとも言われています。

チャイルドラインに子どもたちは、助言やアドバイスを求めるよりも、聴いてほしい、つながってほしいという動機でアクセスしてきています。何かが起こったときに、多くのおとなはまず「相談してくれれば」「助けを求めてくれれば」と思います。相談とは「子どもにとって」一体どういう行為でしょうか?

～「相談する」「助けを求める」ことは、力があるということなのだ!～

当初、チャイルドラインの活動をする人たちの中で、チャイルドラインは相談電話ではないという論議が様々なされました。それは、チャイルドラインというのは、受容・傾聴することで子どもがエンパワメントすることをサポートするという考えから、世間一般の相談電話、若しくは相談に対する「アドバイスする」というイメージからはほど遠いという思いがあったからではないのでしょうか。

2020 年度の子どもの自殺者数の増加は、おとなや社会に衝撃をもたらしました。その前に、相談してくれれば良かったのに…誰しものが、まず浮かんでくる考えなのではないのでしょうか?でも、実際には、相談していなかったというケースが多いように感じます。

相談するということ自体、ハードルが高いと言う子どもたちがいます。おとなや支援者は、何かあったら相談して下さいと言いますよね。でも、子どもたちにとって相談するということは、自分が、できないやつ、ダメなやつ、弱いやつと思われるのではないかと思っています。支援者のみなさんは、「助けを求める」には、力が必要ということをご存じですよね。

チャイルドラインは、関係性の支援とも言えます。アクセスしてくる子どもと受け手とが一期一会で、一瞬ではありますが、ある意味の信頼関係を築き、つながります。受けとめるということは、肯定する意味ではありますが、違う見方をすれば「決して否定しない」とうメッセージです。

子どもたち自身は、もともと力があります。チャイルドラインは否定されて萎縮した子どもたちの心が「エンパワメント」することの伴走役を務めます。その存在を通して、ある意味否定され続けた子どもたちに、世の中にはこんなおとなもいるんだ、自分もこのままで生きていいんだということを伝えています。

チャイルドラインからの3つの提言2021

I. 今こそ、子どもアドボカシーの大切さを！

子どもの権利条約において最も基本的な条項は、第12条「意見表明権」です。それを前提とすることで第3条「子どもの最善の利益」を真の意味で実現することができます。

あなたは、自分に関わる何かをするとき、自分の意思や気持ちを十分聴いてもらってきましたか？コロナ禍の子どもたちしかり、いいえ日常生活の中ではどうなのでしょう。チャイルドラインには、聴いてもらっていない子どもたちの様子が感じられます。「子どもによかれ」は、社会やその周りのおとなの意思であり、その子ども自身の意思ではありません。私たち子どもに関わるおとなや組織は、そこに「ずれ」が生じていることに気づく必要があります。「子どものことは子どもに聴け」といわれますが、言いなりになるのでは？と感じているとしたら、自分自身十分聴いてもらってこなかったのかもしれない。自分のことは、自分で決める、自分で責任を持つという大原則は、自立したおとなになる上で、最も大切なことです。チャイルドラインが代弁者になるということは、子ども自身になることではなく、子どもの声を社会が受けとめる翻訳者になる必要を感じています。子ども専用のラインであるチャイルドラインの使命である子どもの「声」を発信することは、権利が十分認められない子どもたちに代わって発信すること、それと同時に、子ども自身が社会参画することを進めることです。

II. すべての子どもたちに豊かな子ども時代の保障を！

子どもはすべからず養育される権利を持っています。要保護、要支援家庭で暮らす子どもたちは、基本的信頼関係を結ぶ養育者の様々な問題とともに地域や社会の支えのないまま、子ども虐待（child abuse 権利の視点から見ると「不適切な関わり＝maltreatment＝マルトリートメント」と考えられます）という状況に陥ります。一方、その中で暮らす子ども自身は、保障されるべき自分の権利を知りません。

社会的養育ビジョン（平成29年）では、「虐待を受けた子どもや、何らかの事情により実の親が育てられない子どもを含め、全ての子どもの育ちを保障する観点から、平成28年児童福祉法改正では、子どもが権利の主体であることを明確にし、家庭への養育支援から代替養育までの社会的養育の充実とともに、家庭養育優先の理念を規定し、実親による養育が困難であれば、特別養子縁組による永続的解決（パーマネンシー保障）や里親による養育を推進することを明確にした。」（厚生労働省 新しい社会的養育ビジョンの意義より）

社会的養育で暮らす子どもたちからの電話は、決して多くありません。措置されている児童養護施設、里親等の元で暮らす子どもたちだけではなく、もっと多くの子どもたちがそういった状況にあります。子どもたちの中でもこのような格差を生んでいるのではないのでしょうか。

全ての子どもに豊かな子ども時代を保障するのは、私たちおとなや社会の責任です。親をはじめとする養育者だけで子どもは育ちません。豊かな人垣の中で、そして子ども集団の中で、それらを保障する社会の中で、豊かに育っていくのです。

III. 子どもの権利条約の理念に基づき、SDGs、子どもにやさしいまちづくりを進めましょう！

ユニセフ「子どもにやさしいまちづくり事業」が始まって25年、2015年国連総会で採択された、「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals=SDGs 2016年-2030年)目標11には、全ての人が受け入れられる、安全かつレジリエントで持続可能な都市と住居への転換が謳われています。子どもにやさしいまちづくりそのものです。そのプロセスは、県、市町村で子どもの権利条約を実現していくことです。子どもにやさしいまちづくりには次の9つのポイントがあります。チャイルドラインは、積極的に「子どもにやさしいまちづくり」を進めていきたいと思えます。

1. 子ども参加

自分たちに影響を及ぼす問題への子どもたちの積極的参加を推進すること。意思決定プロセスで子どもたちの意見に耳を傾け、それを考慮に入れること。

2. 子どもにやさしい法的枠組み

全ての子どもの権利を一貫して促進・保護する立法、規則の枠組み及び手続を確保すること。

3. まち全体の子どもの権利戦略

子どもにやさしいまちづくりのための詳細かつ包括的な戦略ないし課題文書を、条約にもとづいて策定すること。

4. 子どもの権利部局または調整のしくみ

子どもの視点が優先的に考慮されるようにするための恒久的体制を地方自治体のなかで発展させていくこと。

5. 事前・事後の子ども影響評価

法律・政策・実務が子どもたちに与える影響を、事前に、実施中に及び実施後に評価するための制度的プロセスを確保すること。

6. 子ども予算

子どものための十分な資源配分と予算分析を確保すること。

7. 定期的な自治体子ども白書

子どもたち及び子どもの権利の状況に関する十分なモニタリングとデータ収集を確保すること。

8. 子どもの権利の周知

おとな及び子ども間で子どもの権利に関する意識が根づくようにすること。

9. 独立した子どもアドボカシー

子どもの権利を促進するため、非政府組織の支援、独立の人権機関（子どもオンブズピープルや子どもコミッショナー）の設置を進めること。

(UNICEF・イノチェンティ研究所 平野裕二訳)

チャイルドライン支援議員連盟勉強会(2020年11月25日)にて発表

1. すべての基は「愛着形成」にあり
2. チャイルドラインからみえる子どもの状況
3. SDGsの目標から見る子どもの問題の現状と課題
4. コロナ禍の子どもたちの声
5. 自殺の課題 10代の女性の増加を考える
6. 性・虐待(見えていない)に関すること

- ① 子ども・子育てに関わる法律、施策決定にプロセスで必ず子どもの声を聴いていただきたい
- ② 子どもの権利条約を広報すると共に子ども自身が子どもの権利条約を学べる機会をつくることと、子どもの権利条約の理念を子どもに関わる法律に広く位置づけていただきたい
- ③ 子どもに届く子ども予算の拡充を！子ども主体の少子化対策にいただきたい
- ④ 貧困家庭を含む全ての子どもからの多様な安全なアクセス手段の確保にご助力いただきたい
- ⑤ 学校等で権利に基づく性教育及び正しい性の知識を得る教育を実施していただきたい

子どもに関する新たな省庁創設の議論に関する共同声明**広げよう！子どもの権利条約キャンペーン2021年7月5日**

1 子どもの権利条約等に掲げられた子どもの権利の実現を総合的・包括的に推進するための機関であることを明確にすること。

2 子どもの最も身近なおとなである親・保護者が子どもの権利を十全に守っていけるようにするため、親・保護者のエンパワーメントの視点を基調とすること。

3 前掲1のような総合的・包括的調整を行うための十分な地位、権限および予算を保障するとともに、「子どもの権利影響評価」のような手続の導入を検討すること。

4 国連・子どもの権利委員会への報告、勧告のフォローアップ等を任務のひとつに位置づけること。

5 子どもの意見表明と参加を積極的・制度的に推進していくこと。

※チャイルドライン支援センターは、7月8日賛同団体として共同で発表した。

チャイルドラインにおける『子どもの権利条約』の意味

1989年11月の国連総会で採択された子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）は、現在、アメリカ合衆国を除く世界中196の国と地域が批准しています。日本は1994年、世界で158番目に批准しました。（またその後、条約を補完するためにつくられた選択議定書のうち2つにも日本は批准しています。）

子どもの権利条約は全54条で成り立っていますが、その中に一般原則とよばれるものがあります。それは、差別の禁止（第2条）、子どもの最善の利益（第3条）、生きる権利・育つ権利（第6条）、意見を表す権利（第12条）の4つです。

これらの原則を前提に、どれか一つではなく、全54条（約40の権利）すべての権利がバランスよく守られてはじめて、子どもたちは、豊かな「子ども時代」を保障され、自分らしく生き生きと生きていくことができるのです。

- | | | |
|-----------------|-----------------|-------------------|
| ①子どもの定義 | ⑩プライバシー・名誉は守られる | ⑳休み、遊ぶ権利 |
| ②差別の禁止 | ⑪適切な情報の入手 | ㉑経済的搾取・有害な労働からの保護 |
| ③子どもの最善の利益 | ⑫子どもの教育はまず親に責任 | ㉒麻薬・覚せい剤などからの保護 |
| ④国の義務 | ⑬暴力からの保護 | ㉓性的搾取からの保護 |
| ⑤親の指導を尊重 | ⑭家庭を奪われた子どもの保護 | ㉔誘拐・売買からの保護 |
| ⑥生きる権利・育つ権利 | ⑮養子縁組 | ㉕あらゆる搾取からの保護 |
| ⑦名前・国籍をもつ権利 | ⑯難民の子ども | ㉖拷問・死刑の禁止 |
| ⑧名前・国籍・家族関係を守る | ⑰障がいのある子ども | ㉗戦争からの保護 |
| ⑨親と引き離されない権利 | ⑱健康・医療への権利 | ㉘被害にあった子どもを守る |
| ⑩別々の国にいる親と会える権利 | ㉙施設に入っている子ども | ㉚子どもに関する司法 |
| ⑪よその国に連れ去られない権利 | ㉚社会保障を受ける権利 | ㉛子どもにとってもっともよい法律 |
| ⑫意見を表す権利 | ㉛生活水準の権利 | ㉜条約の広報 |
| ⑬表現の自由 | ㉜教育を受ける権利 | ㉝～条約のしくみ |
| ⑭思想良心宗教の自由 | ㉝教育の目的 | （日本ユニセフ協会 HP より） |
| ⑮結社・集会の自由 | ㉞少数民族・先住民の子ども | + 選択議定書（売買・武力紛争） |

子どもの権利が保障されてきた歴史の中で、最も大切なことは、「参加の権利」です。

第3条子どもの最善の利益にも謳われているように、おとなにとってではなく、子どもにとって最も良いことを保障していくためには、子ども自身の意思や気持が最も大切にされなければなりません。「子ども主体」であることが大前提となるのです。

この日本社会の中で子どもの存在は、この社会を構成する一員であるとはお世辞にも言いがたい状況にあります。自分よりも他者から求められる自分を演じることで自己肯定感を持ってないでいる日本の子どもたちの状況から、チャイルドラインは、ミッションに謳われているように、子どもの声を否定せず受容、傾聴することで、子どもがありがたみで安心できる心の居場所をつくります。こうしたおとなや社会の姿勢は、子どもたちへの「あなたは大切な存在なんだ」というメッセージです。子ども自身が、人生をつくる主体であることを保障するのです。

また、子ども自身に関わる事柄への子どもの意思や意見の反映にとどまらず、更に、社会に対する子どもの意見表明を保障する仕組みであり、社会のパートナーである子どもの声から、おとなや社会を問い続けなければなりません。

おとなでは実現できなかった「新しい社会」を子どもたちと共に、つくっていきましょう。

まさに、チャイルドラインは、子どもの代弁者となることが求められるのです。

チャイルドラインとは

「チャイルドライン」は子どもの「声」を聴く活動です

チャイルドラインは18歳までの子どもの「声」を聴き、その気持ちに寄り添う活動です。

指導や指示、おとなの意見の押しつけはしません。子どもの「声」に、ただただ耳を傾け、気持ちを聴いています。子どもは、本気で自分の話を聴いてもらえた、受けとめてもらえたと感じることができれば、自分自身でその課題と向き合い、乗り越えていく力を持っています。その力を信じ、子どもの「声」の奥にある「こころ」を受けとめるのが、チャイルドラインです。

大切にしていること

「子どもの権利条約」の理念に基づき、子ども主体の「子どもの最善の利益」の実現を目指しています。

〈チャイルドラインの子ども観〉

- ・子どもはおとなと同様の権利を持っています
- ・子どもはおとなと対等な存在であり社会をともにつくっていくパートナーです
- ・子どもをひとりの人間として、その主体性を尊重します

参照 2019年3月版チャイルドラインガイドライン

チャイルドラインの主役は子どもです。問題解決のための具体的な助言やアドバイスをするのではなく、子どもが自分の気持ちを整理し、自分が思う解決方法を考える過程に寄り添います。また、主導権は子どもにあります。子どもがやめたいとならいつでも話をやめることができます。

〈チャイルドラインの約束〉

子どもが安心して話せる場となるために、チャイルドラインから子どもたちへの約束です。



社会的役割

子どもの「声」を聴くおとなの責任として、子どもの話を聴いたままにするのではなく、そこから見える社会課題や子どもたちの状況を社会に伝えていくことで、子どもが生きやすい環境をつくっていきたくと考えています。そのため、子どもたちの声をデータとしてまとめ、分析し、社会に発信することや、講演会などで“子どもの話を聴くこと”の大切さを社会に啓発する活動を重ねています。また、行政・企業・他団体と「子どもの最善の利益」が保障される社会をつくるために何が必要かを話し合い、連携、協働していくことにも取り組んでいます。

チャイルドラインの活動は、関わるおとなも人として成長する機会になっています。そして、それぞれが地域の「おとな」として子どもや社会と向き合っていくこともチャイルドラインに関わるすべての人の使命であると考えています。

日本における「チャイルドライン」の歩み

- 1997年 東京都世田谷区の市民団体が、当時の文部大臣らと共に英国チャイルドラインを視察
英国チャイルドラインより2名が文部省主催国際シンポジウムに招聘される
東京・宮城・石川・三重の団体が英国チャイルドラインより2名を招聘し、全国4カ所でチャイルドラインセミナーを開催
国会で超党派による「チャイルドライン設立推進議員連盟」設立
- 1998年 「せたがやチャイルドライン」開設（24時間2週間）日本で最初の「チャイルドライン」
- 1999年 NHK教育テレビ40周年記念番組「NHKチャイルドライン」実施（13時間1919件）
チャイルドライン支援センター設立
カナダ子どもNPO視察ツアーに参加（キッズヘルプフォン・ヘイライン視察）
「チャイルドライン開設のためのセミナー」開催（全国から80名参加）
- 2009年 全国统一番号フリーダイヤル運用開始（月曜～土曜日 16:00～21:00）
- 2018年 全国统一番号フリーダイヤル毎日実施（16:00～21:00）
- 2019年 オンラインチャット相談運用開始（木曜 金曜 第3土曜 16:00～21:00）

1970年代、北欧で子どものためのホットラインの活動が始まりました。活動は世界各地に広がっていき、1986年には虐待が社会問題となっていたイギリスでチャイルドライン（ChildLine UK）が開設されました。

日本で子どものいじめや自殺が社会問題となり始めた1997年、子どもの問題に取り組む世田谷区の市民団体が当時の文部大臣と共にチャイルドラインを視察したのち、全国でチャイルドライン設置の機運が高まりました。1998年に日本最初のチャイルドラインとして「せたがやチャイルドライン」が2週間の期間限定で実施され、1999年、チャイルドラインの活動を全国に広めていくため「チャイルドライン支援センター」が設立されました。現在では39都道府県で68団体（開設準備中2団体）がチャイルドラインの活動をしています。

世界の子どものためのホットライン実施団体をつないでいるのは、チャイルド・ヘルプライン・インターナショナル*です。各国の事情により、子どもたちに提供されるサービスは様々ですが、子どもの権利条約に基づき運営されています。日本の「チャイルドライン」は、現在、電話とオンラインチャットというツールによって「子どもの声」を聴く「子どものこころの居場所」としての存在となっています。

※チャイルド・ヘルプライン・インターナショナル Child Helpline International について
2003年設立 略称：CHI 本部：オランダ・アムステルダム
現在140の国や地域で活動している167団体がメンバーとなっている。

子どもからの質問・意見・感想

- ・最初は、聞いてくれるか心配だったけど、ゆっくりきいてくれて、安心しました。
- ・電話で相談したら、めちゃくちゃスッキリしました！すごく悩んでいたのが魚っちゃって、落ち着いて話すのがすごく難しかったけど、「ゆっくりでいいよ」と言ってくれました。なので相談してよかったです！
- ・電話でお話したいのですが、16時～21時の間にかけても繋がったことがありません。電話をできる条件は満たしているのですが、混み合っているから繋がらないのですか？
- ・どうしてもチャットがしたいのですが、カレンダーと、用事が合いません。どうしたらいいでしょうか。
- ・チャイルドラインで相談しましたがとても冷たく何のアドバイスもしてくれずそうなんですかなどという回答しか返ってきませんでした
- ・私が話したい方向と違う方向に話が進んで終わった。そうじゃない、そっちじゃない、って感じ。
私が今悩んでいるのは、こっちだよ、って言いたかったけど言えなかった。

チャイルドラインのウェブサイトを通じて寄せられた質問・意見・感想です
（公表することを明記し募集しています）

子どもの声

COVID-19 とともに

- ・分散登校だったけど全員で授業が始まる。学校楽しいよ。公園のロープも外された!
- ・先生がコロナになって学校が休みになった。給食は誰とも話さず前を向いて食べるし本当につまらない
- ・修学旅行がなくなり悔しい。みんなと最後の思い出を作りたいかった。コロナがなかったら行かれたのに
- ・コロナにかかった人が出て学級閉鎖になった。誰がかかるか分からないし、かかった人が悪いわけではない
- ・母親が病院で働いている。うつるから近寄らないでと友だちから言われてショック。つらいし悲しい

生きづらさを抱えて

- ・最近、死にたいとか消えたいと思う。親に怒られるし友だちも冷たい。何で生きているんだろう
- ・イヤなことがあった時とかに手首を切ってしまう。最近はイヤなことがないのに切ってしまう。やめたいけど
- ・生きるの疲れた。友だちもいないし何もいいことない。静かに消えたい。弱い自分が嫌い
- ・死にたい気持ちが強くて学校でも色々あった。どうすればいいかわからない。死にたくてたまらない。助けて

学校で

- ・学校が怖い。保健室に通えるようになったけど、みんなが見るし教室に入るのが怖い
- ・友だちがずっと休んでいる。LINEで毎日連絡しているけど自分も辛くなってきた。なんで来ないんだろう
- ・クラスでイジメがあって見ているのがイヤ。先生に言ってやめさせたいけど自分もいじめられるかもしれない
- ・部活の顧問が怖い。失敗すると「バカだな」とか「走れ」とか言う。先輩も嫌がっているし暴言吐くのやめてほしい
- ・修学旅行の班決めて誰も誘ってくれなかった。もう終わった。ムリだ、ムリムリ。もう終わった

家庭で

- ・5人きょうだいなので、お母さん大変で私にまで気が回らないみたい。チャイルドラインに電話してる
- ・お父さんがお酒を飲むと暴れてモノが壊れる。もし危なくなったら近くの交番に行きなさいとお母さんに言われている。離婚するかもしれない
- ・母はストレスがたまると私と弟にあたる。今月いっぱい外出禁止。母も祖母に厳しくされたみたい
- ・母が病気で仕事ができなくなり、ひとり親なので進路を就職に変えた。進学してもよかったのと言われ、私の決断は意味がなかった

自分 性 将来のこと

- ・女子でも男子でもないっていうか最近、性別に違和感がある。これって何だろう。障害とか病気なのか
- ・ダイエットにチャレンジして15キロやせた。大成功と思ったけど最近は歩くのもつらい。食べられなくなった
- ・下着の写真を送れと言われて彼氏と別れた。好きだからと断らなかった自分も悪かった。彼が退学になるか心配
- ・将来への不安で自分の心がわからなくなる。友だちは夢を持って頑張っているのに。逃げてはいけないと思うが

(電話・オンラインチャット・「つぶやく」に寄せられた声をプライバシーに配慮し再構成しています)

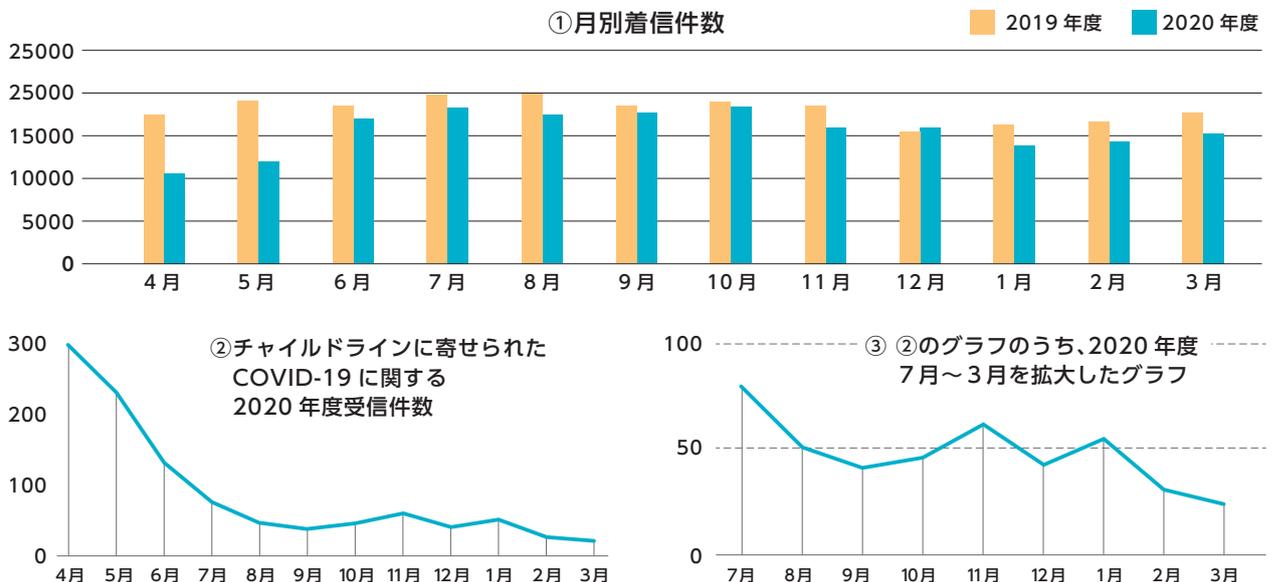
2020年1月に国内最初の「新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）」感染者が確認されました。その後、2月28日、文部科学省から全国小中高等学校等へ一斉休業要請が出され、3月20日休校解除までの期間、子どもたちの気持ちは大きく揺れ動きました。急に休みにってしまった戸惑いや、卒業式の繰り上げや中止についての悲しみなどが、子どもたちからチャイルドラインに多く寄せられました。現在も COVID-19 の流行は続いています。

子どもたちのその後の変化を、チャイルドラインに寄せられた声から追ってみました。

※文中グラフ及び表①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪は、2019年、2020年ともに4月1日～翌年3月31日にチャイルドライン（電話及びオンラインチャット）で受信した件数です。（2021年7月現在）グラフ及び表④⑥は、厚生労働省「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料」（暫定値）及び「自殺の統計：各年の状況」（確定値）を基に文部科学省において作成したものを引用及び基にしています。（文中では元号表記を西暦に変更。）

チャイルドラインへの着信状況と COVID-19

緊急事態宣言発出という事態の中では感染予防が優先課題となり、チャイルドライン活動休止を余儀なくされた団体もあって、回線数が一時30%まで落ち込みました。2019年度と2020年度の着信件数がグラフ①のようになっているのは、そのような要因も影響しています。



2020年度の着信の中で、COVID-19に関する内容のものは②のとおりです。

2020年3月から4月にかけて、COVID-19に感染した有名人の死亡が相次ぎ、子どもたちの不安が大きくなりました。さらに4月5月は緊急事態宣言が出され、これまで経験したことのない新学期となり、一変してしまった学校生活によってストレスが極限に達している子どもたちの様子がうかがえました。

その後、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がくり返し発せられる中で、7月以降 COVID-19に関する着信状況は③のように減少しています。子どもたちは「With コロナ」の生活に慣れつつあったのでしょうか。

チャイルドラインから垣間見られた、COVID-19 流行の影響

生活習慣の乱れ

テレビ・ゲーム依存による体力視力低下 肥満

教育格差の拡大

勉強部屋がない 自宅にインターネット環境がない

栄養不足

給食の中止 子ども食堂閉鎖

貧困の加速

親の失業・休業 アルバイト減少による収入減

監視社会 いじめの増加

虐待の増加 親のストレス 子どもの逃げる場所がなくなる

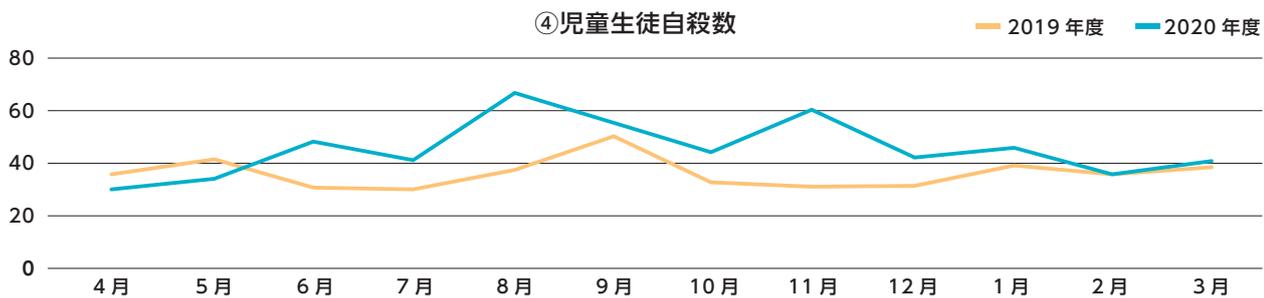
DVの増加

親同士のDVだけでなくデートDVも深刻化

性的問題

妊娠 SNSなどによる加害・被害
性を収入の手段とするしかない

COVID-19の流行と子どもの自殺について



2020年度の③と④のグラフは、8月以降11月と1月に増加しているという共通点が見られます。これらのことからCOVID-19の影響と児童生徒の自殺について考察してみました。表⑤は2020年度チャイルドラインへの中学生からの内容別着信状況です。文部科学省の調査では小学生、中学生、高校生と分類をしていますが、チャイルドラインでは18才までを対象としており、高校に通っていない子どもたちの主訴も入っているため比較しにくいので、ここでは中学生を取り上げました。

表⑤ 2020年度チャイルドラインへの中学生からの内容別着信状況

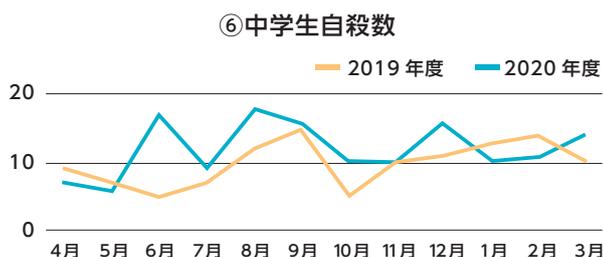
2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
いじめ	24	28	48	44	36	62	54	57	50	37	39	38	403
心に関すること	102	113	162	144	132	123	157	170	140	114	155	136	1,648
貧困	2	1	3	0	1	2	1	1	1	1	1	3	17
虐待	30	24	42	42	38	35	30	28	29	26	33	26	383
家庭	79	86	119	112	105	98	83	93	73	77	88	93	1,106
部活	13	7	20	37	30	37	37	20	25	12	16	18	272

⑥は文部科学省の調査です。中学生の自殺についても、2019年度と2020年度では傾向が異なり、2020年度は6月、8月、12月、3月に増加しています。中学生の生活で、この時期の特徴を考えたときに、部活動との関連があるのではないかと予想を立てました。チャイルドラインへの中学生の着信のうち、部活動に関するものが主訴となっているものを示したのが⑦のグラフです。

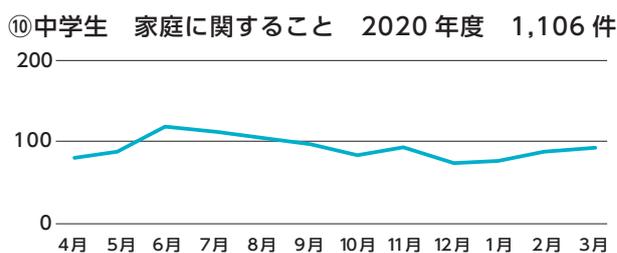
6月は例年中学校の運動部の大会が開催される時期であり、11月は文化部の大会やコンクールが開催される時期です。多くの中学生にとって、部活動は生活の主要な部分を占めていると言っても過言ではないことから、様々な大会が中止となって目標を見失った子どもたちも多かったのではないのでしょうか。これらを自殺とすぐに結びつけることはできないかもしれませんが、自殺のグラフと傾向が非常に似通っていることから子どもたちの心の動きの一端が感じられるところです。

さらに見ていくと、いじめ、心に関することについても似通った傾向が見られました。

⑥のグラフでは、2019年度のピークが9月になっており、例年と同様、長期休業の後、学校が始まる時期となっています。



一方 2020 年度⑧⑨のグラフは 6 月、9 月、11 月が多くなっており、時期は少しずれているところもありますが、⑥⑦⑧⑨ともに同様の傾向を示しています。



⑩の家庭に関することでも 6 月と 11 月 3 月が多い傾向がありますが、7 月 8 月の大きな減少が見られません。⑪の虐待については、通年で着信があり、大きな増減は見られませんでした。とはいえ、家庭に関することが年間 1,106 件、虐待が 383 件の着信があることは見逃せないこととして対策を講じていく必要があります。

文部科学省では、自殺の原因調査も行っています。表⑫は以下の資料をもとに作成をしたものです。集計の方法は下記の通りであるため、表⑫では女子と男子の合計が男女合計と一致していない場合があります。

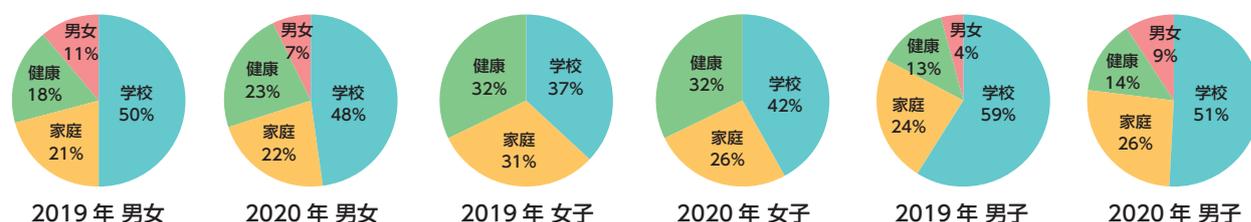
文部科学省主催「児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議 (令和 3 年度第 2 回・5 月 7 日開催) の参考資料 2「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状について」の中の「令和元年 (平成 31 年) 及び令和 2 年 (暫定値) における児童生徒の自殺者数の原因・動機別表～原因・動機数における上位 10 項目～」

注記として「同順位の項目が多く表にしきれない場合がある、複数計上あり」などがある。

表⑫

分類	年	男女合計		女子		男子	
		2019 年	2020 年	2019 年	2020 年	2019 年	2020 年
学校	学業不振	43	52	6	19	37	33
	進路	41	55	9	27	32	28
	学友との不和	24	26	15	18	9	8
	入試	21	18	4	10	17	8
家庭	親子不和	30	42	18	25	12	17
	家族からのしつけ・叱責	26	26	5	11	21	15
	—	—	—	5	9	6	7
健康	病気 (その他の精神疾患)	26	40	17	29	9	11
	病気 (鬱)	20	33	9	22	11	11
	—	—	—	3	6	—	—
	病気統合失調症	—	—	—	—	—	—
男女	失恋	16	16	—	—	7	13
	交際	13	5	—	—	—	—
合計		260	313	91	176	161	151

⑬ 表⑫をグラフ化したもの



データを見ると、どれも「学校」の問題が1位を占めていますが、2位は、女子は「健康」男子は「家庭」となっています。この「健康」という項目には、「病気(鬱、その他の精神疾患)」が該当しており、女子は2019年26件でしたが、2020年には51件と倍増しています。また、女子の3位となっている家庭の問題も28件から45件と増加しています。

2020年8月1ヶ月間の20才未満の女性の自殺が前年の11人から40人に急増したという発表が厚生労働省からありました。このことから、若年女性の自殺が増加していることが注目され、COVID-19の流行の影響で仕事を失うなどのほか、育児や介護などの福祉サービスが停止されて女性への負担が増す、DVの影響などもあるのではないかと分析がされました。

子どもたちを追い詰める問題

最近のチャイルドラインへの着信の傾向として、不登校の悩みや心の悩みを抱える女子からは、直接原因となる事柄についてというよりも、「自分の悩みを親や周囲に理解してもらえない」という訴えが多く寄せられています。例えば、無理に学校へ連れて行かれる、保健室登校も許されない、自傷行為を見つかって叱られた、家に自分の居場所がない、などで。追い詰められていく女子の生きづらさの特徴が見られます。また、このことは男子も例外ではないかもしれません。表⑫は、そのままに受け取るのではなく、学校問題の影に家庭の問題が隠れていると考えた方が良いのではないのでしょうか。ヤングケアラーの存在が明らかになるなど、現在悩んでいる子どもたちに必要なのは、スクールカウンセラーなどによる心理的援助だけではなく、実際の福祉サービスであり、それは児童相談所だけでは到底対応しきれない課題です。

COVID-19の流行に対して、ワクチン接種が有効と言われ、高齢者を優先とした接種が行われていますが、若い人たちの間にはSNSなどを通じて様々な情報が飛び交っています。また、東京オリンピック開催前の様々な混乱も不安に拍車をかけ、子どもたちは右往左往するおとなを見て信頼できないと感じ、嫌悪感すら抱いているかもしれません。その一方で、子どもたちには、「自分は何もできない」という無力感や未来に希望を持つことができない閉塞感が漂っているように思われます。

もう一つCOVID-19の流行で見逃してならないのは子どもたちの成長に欠かせない「愛着形成」についてです。

子どもへの権利侵害の最たるものは「虐待」です。厚生労働省の調査「社会的養育の推進に向けて 令和2年4月」によると、「里親に委託されている子どものうち約4割、乳児院に入所している子どものうち約4割、児童養護施設に入所している子どものうち約6.5割は、虐待を受けた経験があり、里親に委託されている子どもの24.9%、児童養護施設に入所している子どもの36.7%が何らかの障害を持っている(数値は原文のまま)」とされています。近年、これらの子どもたちの多くは、発達障害ではなく、虐待による愛着障害であるということが専門家の間で語られるようになりました。

これと同様のことが、現在、東日本大震災の被災地で、震災後に生まれた子どもたちについても言われています。乳幼児期におとなが十分な注意を子どもに向けることができなかった結果、津波も地震も経験していない子どもたちに影響が出ているといいます。

このことは、このコロナ期についても、将来同様のことが起きる可能性が大きいことを示唆しています。この世に生まれてきて、おとなの笑顔に迎えられることなく、毎日マスクに覆われた顔を見続けて、子どもたちは今後どのように育っていくのでしょうか。

子どもと向き合い、気持ちを聴き、未来をともに語る

このような様々な課題を抱える社会ではありますが、チャイルドラインはひとりひとりの子どもに向き合って気持ちを聴き続けます。また、チャイルドラインの各実施団体は、子どもを支えるおとなの集団として、チャイルドラインから見える子どもの状況を社会に伝え、地域で子どもの支援活動を行っている他の団体や行政と連携しながら、子どもたちが生きやすい未来社会を作っていくことを目指します。

2020年4月7日に発出された緊急事態宣言。

COVID-19の流行により社会が大きな不安に襲われ、チャイルドラインにも大きな影響を及ぼしました。

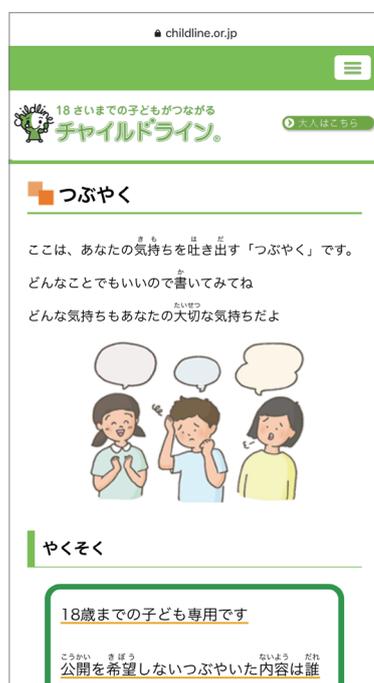
チャイルドラインは、子どもの「声」を電話・オンラインチャットで受ける「受け手」と受け手に寄り添い支える「支え手」が同じ場所に集り、実施しています。

「密になってはいけない」このことで、同じ場所に集まることへの不安が高まっていき、また、開設場所の閉鎖も相次ぎました。一時期、回線数が30%にまで落ち込みました。



「チャイルドラインでクラスターを出すわけにはいかない」
「こんな時だからこそ、子どもの気持ちを少しでも多く受けとめたい」
二つの思いが交錯する中、考えだしたのが「つぶやく」でした。

「つぶやく」は、
チャイルドラインのホームページトップから入ることができます。



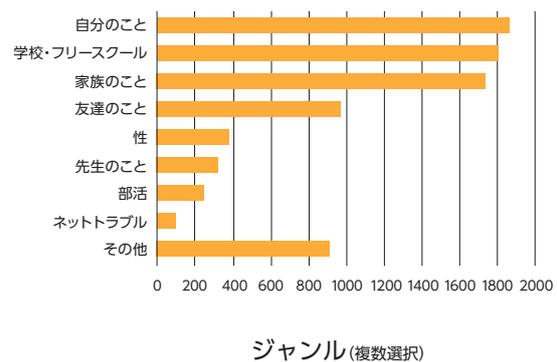
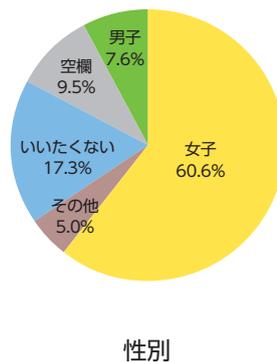
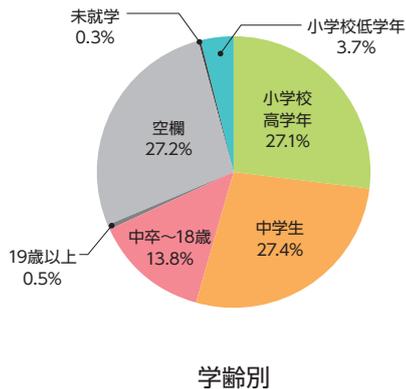
気持ちを吐きだしたいと思ったら、
24時間いつでも匿名で書き込むことができます。

チャイルドラインからの返信はありません。

2020年6月末の開設以来、毎月700～800件の書き込みがありました。

返信がないとわかっているにもかかわらず気持ちを吐きだしたいという思いが、ひしひしと伝わってきます。

また、返信がないからこそ、相手の反応を気にすることなく、気持ちをだせる子どもも多いのかもしれない。



「つぶやく」の中の子どもたち

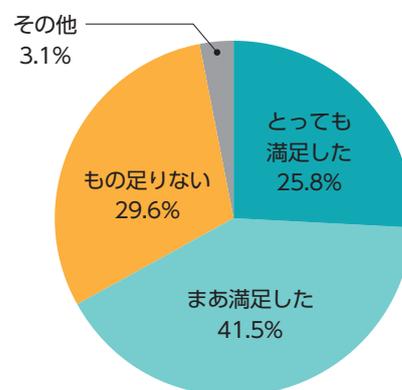
学校での人間関係がうまくいかず、家庭でも親から罵倒され、暴力を振るわれる子どもたち。どこにも居場所がない子どもたちは自分の存在を認められなくなっています。「学校がつらい」「毎日がつらい」「がんばらないといけないとわかっているけど、もうがんばれない」とつぶやいています。

また、自分の性への違和感、その違和感を一人で抱え込んでいるしんどさを綴る子どももいます。「ありのままの自分を受けとめてもらいたい」子どもたちは、そう願っています。けれど、受け入れてもらえなかったときの恐怖・絶望感を予想して立ちすくむ子どもたちの姿や、実際に勇気を振り絞って伝えたいけれど拒絶された怒りや絶望も多く見受けられます。「死にたい」「消えてしまいたい」とつぶやく子どもが何人もいます。

少ないながらも、うれしい気持ち、楽しい気持ちを書き込んでくれる子どももいます。

つぶやいた後のアンケートには、文章にするだけで自分の気持ちを整理できる、ほんの少し気持ちが軽くなったという感想や、電話やチャットをする勇気がないから書き込んだというコメントがありました。

また、チャイルドラインの電話やオンラインチャットの実施時間と都合が合わないので書き込んだという子どももいました。



実施概要 2020年4月1日～2021年3月31日

電話（統一番号フリーダイヤル）

電話番号：0120-99-7777（日本全国共通／通話無料、携帯電話・公衆電話も可）

実施日時：毎日16時～21時（年末年始は休止） ※一部地域では時間延長して実施

オンラインチャット

チャイルドライン支援センターウェブサイト上に専用ページ設置 <https://childline.or.jp/chat>

実施日時：木曜日、金曜日、第3土曜日 16時～21時

トラフィックデータから見える子どもの状況（2021年7月15日現在）

電話はNTTコミュニケーションズのトラフィック調査ツールより、オンラインチャットはAI.BiSのシステム上のツールより、取得し分析したものです。

利用状況

電話

項目	2020年度	実施日359日のうち1日あたり	2019年度	前年比
発信数	552,352件	1,539件	436,047件	116,305件
着信数	151,812件	423件	181,196件	-29,384件
うち固定	23,402件	65件	35,599件	-12,197件
うち公衆	2,514件	7件	4,570件	-2,056件
うち携帯	125,896件	351件	141,027件	-15,131件
着信率（会話できた率）	27.5%		41.6%	-14.1ポイント
かけた人数（のべ）	194,802人	543人	220,249人	-25,447人
つながった率	77.9%		82.3%	-4.4ポイント
平均通話時間	5分59秒		5分50秒	9秒
10分以上の通話	28,117件	78件	32,459件	-4,342件
着信数比	18.5%		17.9%	0.6ポイント
総通話時間	15,152時間	42時間	17,603時間	-2,451時間
総実施時間	32,350時間	90時間	38,966時間	-6,616時間
稼働率	46.8%		45.2%	1.6ポイント
時間着信数／回線	4.7件		4.7件	0.0件

※「つながった率」とは同日中に電話をかけた人数のうち、何人着信できたかを表しています。
 ※「10分以上の通話」は平均通話時間以上で、一定会話が深められる時間として設定しました。
 ※「総通話時間」着信した電話の通話時間の合計。
 ※「稼働率」総実施時間のうち、通話していた時間の比率を表しています。
 ※「時間着信数」1回線あたりの1時間に着信した件数を表しています。

電話発信数の内訳

	2020年	比率
着信	151,812件	27.5%
不完了	話し中	97,684件 17.7%
	途中切れ	34,697件 6.3%
	時間外	25,697件 4.7%
	無応答	121,535件 22.0%
	その他	120,927件 21.9%
発信数計	552,352件	100.0%

オンラインチャット

項目	2020年度	実施日113日のうち1日あたり	2019年度	前年比
訪問件数	85,023件	752件	61,620件	23,403件
書き込み件数	17,573件	156件	13,325件	4,248件
対応件数	6,992件	62件	4,630件	2,362件
うちスマホ・タブレット	5,774件	51件	4,191件	1,583件
うちPC	1,217件	11件	438件	779件
不明	1件		1件	
対応率（会話できた率）	39.8%		34.7%	5.1ポイント
ユニーク訪問人数（のべ）	52,114人	461人	37,040人	15,074人
書き込み人数（のべ）	17,570人	156人	13,225人	4,345人
つながった率	33.9%		35.7%	-1.8ポイント
平均対応時間（1対応件あたり）	36分30秒		37分52秒	-1分22秒
40分以上のチャット	2,531件	22件	1,941件	590件
対応件数比	36.2%	0.32%	41.9%	-5.7ポイント
総対応時間	4,254時間	38時間	2,922時間	1,332時間
総実施時間	4,325時間	38時間	2,872時間	1,453時間
稼働率	98.4%		101.8%	-3.4ポイント
時間対応数／1回線	1.6件		1.6件	0.0件

※「訪問件数」チャットシステムに入室した延べ人数で、電話における発信数にあたりません。
 ※「書き込み件数」対応した・しない、に関わらず子どもが何らかの書き込みをした数（チャット特有の数値）。
 ※「対応件数」受け手が何らかの書き込みをした数（ガイドランスは除く）。
 ※「対応率」書き込み件数に対して対応した比率。
 ※「ユニーク訪問人数」実際にチャットシステムに訪問した人数（IPアドレスの重複を除いていますが、月が替わると1カウントとして計上されます）
 ※「40分以上のチャット」平均対応時間以上で、ある程度会話が深められると考えた時間。
 ※「稼働率」「総実施時間」あたりの「総対応時間」の比率。100%を超えているのは、実際の稼働と集計が違っていたことが原因と考えられます。（「総実施時間」は実施予定表から積算されており、記載されている予定より多い実施時間、PCの稼働があったためと考えられます。）

アクセス件数年度別推移

電話

着信数は年々減少しています。

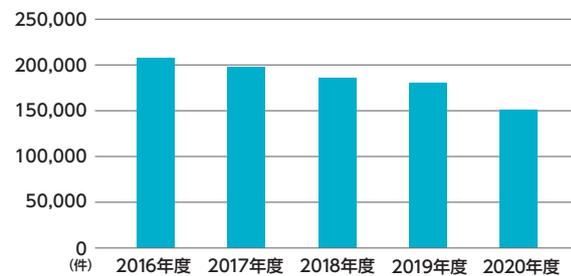
その要因として、

- ・平均通話時間が年々延びていること
- ・フリーダイヤルにかけられる子どもが減ってきていること
- ・家庭の固定電話、公衆電話が減ってきていること
- ・「電話で話す」ことがおとなも子どもも日常から減ってきていること

(2019年度から定期実施が始まったオンラインチャットへの書き込み件数の増加)

などが考えられます。特に、2020年度はCOVID-19の影響で回線数が30%程度にまで落ち込んだ時期もあり、減り幅が大きくなっています。

年度	電話着信数
2016年度	209,243件
2017年度	198,434件
2018年度	186,363件
2019年度	181,196件
2020年度	151,812件



オンラインチャット

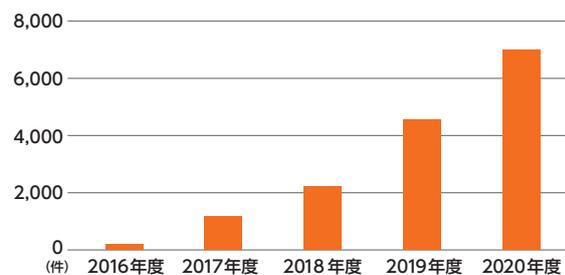
2019年度からは本事業となりました。(2016・2017・2018年度は試行期間)

実施団体が年々増加していることが対応件数増加につながっています。

対応率も年々向上していますが、まだ約40%(P14表参照)であることから、体制の充実が急務です。

COVID-19の影響で家族が家にいる時間が増えるため、オンラインチャットのニーズが増す可能性があります。オンラインチャットは子どもとのやりとりが文字のため実施時のリスクが電話より低いこともあり、実施体制へのCOVID-19影響は低く抑えられました。

年度	対応件数
2016年度	375件
2017年度	1,234件
2018年度	2,254件
2019年度	4,630件
2020年度	6,992件



月別実施状況

電話

発信数が前年に比べ116,305件の大幅な増加、総実施時間数は6,616時間減少しました。総実施時間は、COVID-19の影響で回線数が一時期30%程度にまで落ち込んだため、大きく減少しました。実施時間が減ると、電話につながりにくくなり、何度もかけ直すことが発信数増加の要因の一つと考えられます。

照会区間	発信数	着信数	着信率	平均通話時間	総通話時間	総実施時間
2020年4月	74,618件	8,499件	11.4%	5分38.5秒	799時間	1,763.5時間
2020年5月	58,590件	9,562件	16.3%	5分54.5秒	942時間	1,839.0時間
2020年6月	42,354件	13,455件	31.8%	5分59.5秒	1,342時間	2,880.0時間
2020年7月	44,051件	14,828件	33.7%	5分53.0秒	1,452時間	3,043.0時間
2020年8月	38,436件	14,219件	37.0%	5分35.5秒	1,323時間	3,028.0時間
2020年9月	45,949件	14,220件	30.9%	6分03.5秒	1,435時間	2,989.5時間
2020年10月	45,150件	14,960件	33.1%	6分00.0秒	1,494時間	3,058.0時間
2020年11月	42,958件	12,604件	29.3%	6分39.0秒	1,396時間	2,992.0時間
2020年12月	37,270件	12,737件	34.2%	5分44.0秒	1,216時間	2,779.0時間
2021年1月	41,201件	11,526件	28.0%	5分54.0秒	1,133時間	2,399.0時間
2021年2月	41,419件	12,037件	29.1%	6分07.5秒	1,228時間	2,549.5時間
2021年3月	40,356件	13,165件	32.6%	6分20.5秒	1,392時間	3,029.5時間
2020年度	552,352件	151,812件	27.5%	5分59秒	15,152時間	32,350時間
1日平均	1,539件	423件	27.5%	5分59秒	42時間	90時間
2019年度	436,047件	181,196件	41.6%	5分50秒	17,603時間	38,966時間
前年比	116,305件	-29,384件	-14.1ポイント	+9秒	-2,451時間	-6,616時間

オンラインチャット

訪問数、書き込み数ともに増加しました。実施団体数の増加により対応件数も増加しています。平均対応時間の減少は、実施団体側のチャットへの慣れが要因の一つと考えられます。

日付	訪問件数	書き込み件数	対応件数	対応率	平均対応時間	総対応時間	のべ実施時間数
2020年4月	7,088件	1,324件	394件	29.8%	41分49秒	275時間	263時間
2020年5月	7,692件	1,622件	566件	34.9%	40分38秒	383時間	338時間
2020年6月	6,576件	1,406件	566件	40.3%	40分43秒	384時間	373時間
2020年7月	7,164件	1,598件	589件	36.9%	38分08秒	374時間	374時間
2020年8月	7,182件	1,431件	556件	38.9%	37分26秒	347時間	347時間
2020年9月	7,782件	1,441件	636件	44.1%	32分02秒	340時間	376時間
2020年10月	7,870件	1,680件	702件	41.8%	33分41秒	394時間	410時間
2020年11月	6,487件	1,213件	622件	51.3%	31分07秒	323時間	390時間
2020年12月	6,960件	1,404件	609件	43.4%	31分23秒	319時間	360時間
2021年1月	6,492件	1,392件	568件	40.8%	36分46秒	348時間	368時間
2021年2月	6,726件	1,460件	599件	41.0%	34分35秒	345時間	347時間
2021年3月	7,004件	1,602件	585件	36.5%	43分17秒	422時間	382時間
2020年度	85,023件	17,573件	6,992件	39.8%	36分30秒	4,254時間	4,325時間
1日平均	233件	154件	61件	39.8%	36分30秒	37時間	38時間
2019年度	61,620件	13,325件	4,630件	34.7%	37分52秒	2,922時間	2,872時間
前年比	23,403件	4,248件	2,362件	5.1ポイント	-1分22秒	1,332時間	1,453時間

※1日平均の分母：訪問は毎日できるため「訪問件数」は365、他の項目は実施日数(113)。

端末別

電話

固定電話・公衆電話の利用が年々減っており、携帯電話(スマートフォンを含む)の利用率が82.9%と過去最高になりました。

端末種別	発信数	着信数	端末比率	平均通話時間	2019年度端末比率	前年比
固定電話	84,657件	23,402件	15.4%	06分02秒	19.6%	-4.2ポイント
公衆電話	8,054件	2,514件	1.7%	07分16秒	2.5%	-0.9ポイント
携帯電話	459,641件	125,896件	82.9%	05分57秒	77.8%	5.1ポイント
合計	552,352件	151,812件	100.0%	05分59秒	100.0%	

オンラインチャット

利用端末はスマホ・タブレットが82.6%で、多くの子どもが携帯端末からの発信であることがわかります。昨年度に比べて、PCの比率が増えています。COVID-19の影響でオンライン授業が取り入れられたことで、PCの普及が進んだのかもしれませんが。

発信端末	書き込み件数	対応件数	端末比率	平均対話時間	2019年度端末比率	前年比
スマホ・タブレット	15,019件	5,774件	82.6%	34分37秒	93.2%	2,604件
PC	2,550件	1,217件	17.4%	47分15秒	6.8%	1,645件

都道府県ごとの発信／着信結果

電話

都道府県名	発信数	着信数	着信率	平均通話	総通話時間
北海道	13,711件	3,051件	22.3%	08分30秒	432時間
青森県	1,977件	517件	26.2%	05分02秒	43時間
秋田県	1,584件	355件	22.4%	08分54秒	53時間
岩手県	2,888件	953件	33.0%	04分30秒	71時間
宮城県	9,652件	2,647件	27.4%	09分29秒	418時間
山形県	8,545件	2,086件	24.4%	11分03秒	384時間
福島県	4,555件	1,164件	25.6%	08分33秒	166時間
新潟県	7,242件	2,250件	31.1%	04分22秒	163時間
長野県	14,646件	4,073件	27.8%	07分34秒	513時間
群馬県	7,235件	1,989件	27.5%	04分35秒	152時間
栃木県	4,610件	867件	18.8%	08分42秒	126時間
茨城県	7,686件	1,933件	25.1%	10分42秒	345時間
東京都	69,923件	18,239件	26.1%	05分12秒	1,579時間
神奈川県	38,999件	11,437件	29.3%	08分09秒	1,555時間
千葉県	16,624件	4,164件	25.0%	07分02秒	489時間
埼玉県	30,193件	7,276件	24.1%	10分21秒	1,254時間
山梨県	1,786件	373件	20.9%	11分49秒	74時間
愛知県	81,341件	19,732件	24.3%	04分16秒	1,404時間
静岡県	6,137件	1,666件	27.1%	07分28秒	207時間
岐阜県	11,625件	3,707件	31.9%	04分18秒	265時間
三重県	25,121件	6,609件	26.3%	01分59秒	219時間
富山県	3,740件	1,248件	33.4%	05分30秒	114時間
石川県	3,684件	1,434件	38.9%	04分21秒	104時間
福井県	2,419件	692件	28.6%	07分40秒	88時間

都道府県名	発信数	着信数	着信率	平均通話	総通話時間
大阪府	54,070件	16,092件	29.8%	04分23秒	1,174時間
京都府	6,706件	1,734件	25.9%	08分26秒	244時間
滋賀県	10,394件	2,517件	24.2%	05分44秒	241時間
奈良県	1,024件	232件	22.7%	10分06秒	39時間
和歌山県	18,293件	4,288件	23.4%	07分55秒	566時間
兵庫県	22,655件	5,806件	25.6%	04分31秒	437時間
岡山県	9,824件	4,696件	47.8%	02分03秒	160時間
広島県	8,948件	4,287件	47.9%	03分36秒	257時間
島根県	2,398件	750件	31.3%	06分07秒	76時間
鳥取県	3,038件	1,442件	47.5%	01分57秒	47時間
山口県	712件	268件	37.6%	12分37秒	56時間
香川県	570件	232件	40.7%	08分04秒	31時間
徳島県	731件	270件	36.9%	06分04秒	27時間
高知県	1,210件	645件	53.3%	02分56秒	32時間
愛媛県	531件	232件	43.7%	07分15秒	28時間
福岡県	12,652件	4,153件	32.8%	07分20秒	508時間
佐賀県	3,083件	811件	26.3%	04分23秒	59時間
長崎県	7,949件	1,858件	23.4%	18分52秒	584時間
熊本県	3,400件	668件	19.6%	07分07秒	79時間
大分県	2,017件	547件	27.1%	07分44秒	70時間
宮崎県	2,072件	550件	26.5%	08分33秒	78時間
鹿児島県	1,525件	555件	36.4%	05分31秒	51時間
沖縄県	2,627件	717件	27.3%	07分11秒	86時間
合計	552,352件	151,812件	27.5%	05分59秒	15,152時間

※「発信数」は各都道府県在住の子どもが発信した数で、「着信数」は「発信数」のうち、チャイルドライン（全国）に着信した数です。

オンラインチャット

システム上データを取得できません。

曜日別

電話

着信率が高いのは金曜日で47.9%です。木曜日・日曜日は実施団体数が少ないため、他の曜日と比べてかなり低くなっており、体制の充実が課題となっています。平均通話時間は日曜日が7分39秒と他の曜日と比べて2分近く長くなっています。

曜日	発信数	着信数	着信率	平均通話時間	総通話時間
月曜日	73,030件	25,560件	35.0%	05分37秒	2,392.5時間
火曜日	89,426件	19,907件	22.3%	06分49秒	2,259.5時間
水曜日	66,390件	29,130件	43.9%	05分44秒	2,783.1時間
木曜日	96,928件	14,886件	15.4%	06分47秒	1,682.2時間
金曜日	60,670件	29,087件	47.9%	05分25秒	2,622.8時間
土曜日	68,321件	23,396件	34.2%	05分32秒	2,157.7時間
日曜日	97,587件	9,846件	10.1%	07分39秒	1,255.4時間

オンラインチャット

定期開設曜日の対応率は木曜・金曜が40%近く、土曜が50%以上になっています。

曜日	書き込み件数	対応件数	対応率	平均対応時間	総対応時間
木曜日	8,627件	3,436件	39.8%	36分19秒	2,079.4時間
金曜日	7,569件	2,888件	38.2%	37分03秒	1,783.2時間
土曜日	1,330件	668件	50.2%	35分05秒	390.5時間

※木・金・第3土曜に定期開設。

※対応率=書き込まれた件数に対して「対応」した割合。

※平均対応時間は1件あたりに対応した平均時間。

データベースから見える子どもの状況 (2021年7月15日現在)

子どもの「声」を受ける「受け手」が感じた子どもの状況を、子どもが特定できないようデータベースに集積し分析したものです。

着信の内訳

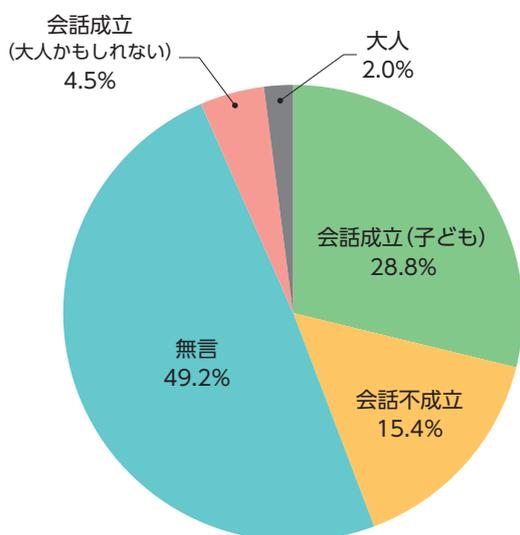
電話の着信の約半数が無言となっています。

無言にはつながった途端に切れるものと長く無言のまま切れるものがあります。

長い無言の後話し出すこともあり、無言も「大切な子どもの気持ち」と考えています。

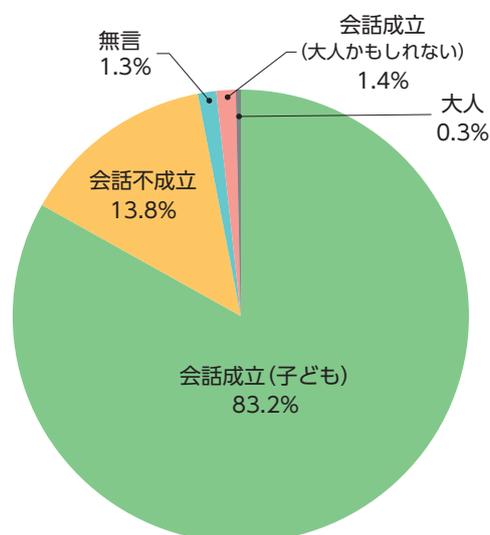
オンラインチャットの場合、子どもとの会話成立が83.2%となっています。

電話



	着信数	比率
会話成立(子ども)	41,941件	28.8%
会話不成立	22,434件	15.4%
無言	71,512件	49.2%
会話成立(大人かもしれない)	6,595件	4.5%
大人	2,952件	2.0%
合計	145,434件	100.0%

オンラインチャット



	着信数	比率
会話成立(子ども)	4,482件	83.2%
会話不成立	745件	13.8%
無言	70件	1.3%
会話成立(大人かもしれない)	75件	1.4%
大人	18件	0.3%
合計	5,390件	100.0%

※「会話不成立」はコミュニケーションが成立しないもの、性的な目的でかけてきたものなどを分類しています。

※「会話成立(大人かもしれない)」は、内容・言葉使いなどから受け手が「大人かもしれない」と感じたものです。

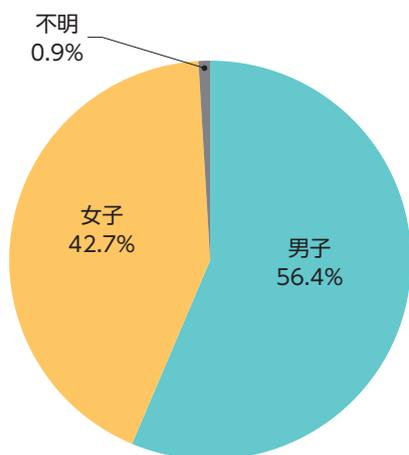
※未入力のあるデータがあるため、トラフィックデータとは一致しません。

「会話成立(子ども)」について分析 (電話: 41,941件、オンラインチャット: 4,482件)

性別、年齢

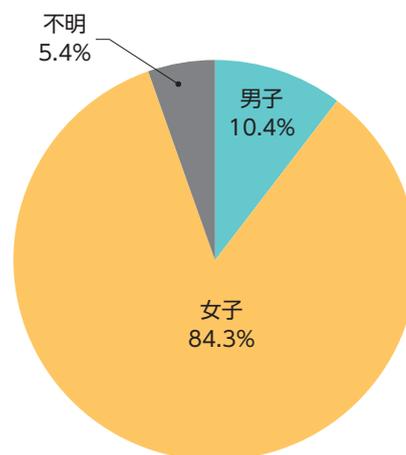
電話は男子が56.4%となっています。年齢が上がるにつれ件数が増えていますが、男女では小学生は女子の件数が多く、中学生になると逆転しています。男子の中学生以上の年齢で、性に関わる内容が多いことが影響していると思われます。オンラインチャットでは、女子が84.3%と女子の利用が圧倒的に多くなっています。中卒から18歳の利用が飛び抜けて多い電話と違い、中学生が最も多くなっています。

電話



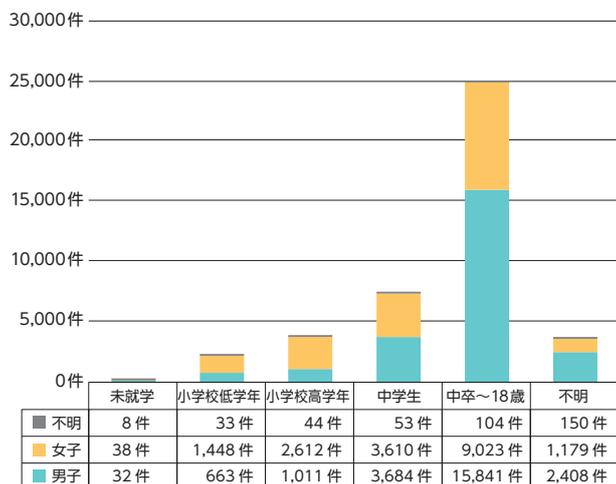
男子	女子	不明	合計
23,639件	17,910件	392件	41,941件
56.4%	42.7%	0.9%	100.0%

オンラインチャット

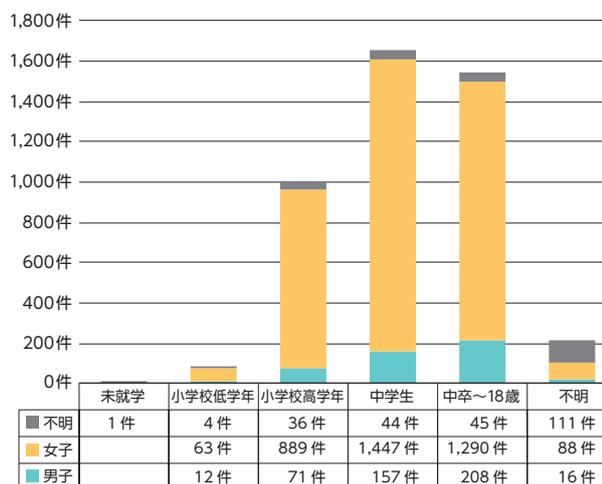


男子	女子	不明	合計
464件	3,777件	241件	4,482件
10.4%	84.3%	5.4%	100.0%

電話〈性別・年齢別〉



オンラインチャット〈性別・年齢別〉

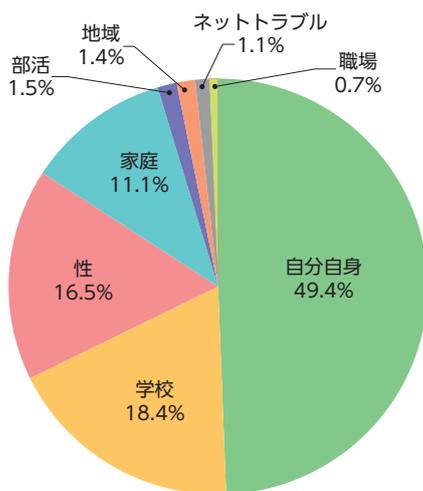


主訴

電話

「自分自身」が49.4%と一番多く、「学校」「性」の順になっています。また、昨年度に比べて「学校」が減り、その分「自分自身」が増えています。2020年度はCOVID-19の影響で約3ヶ月休校となったために「学校」に関する内容が減り、「自分自身」を見つめる時間が増えたものと考えられます。

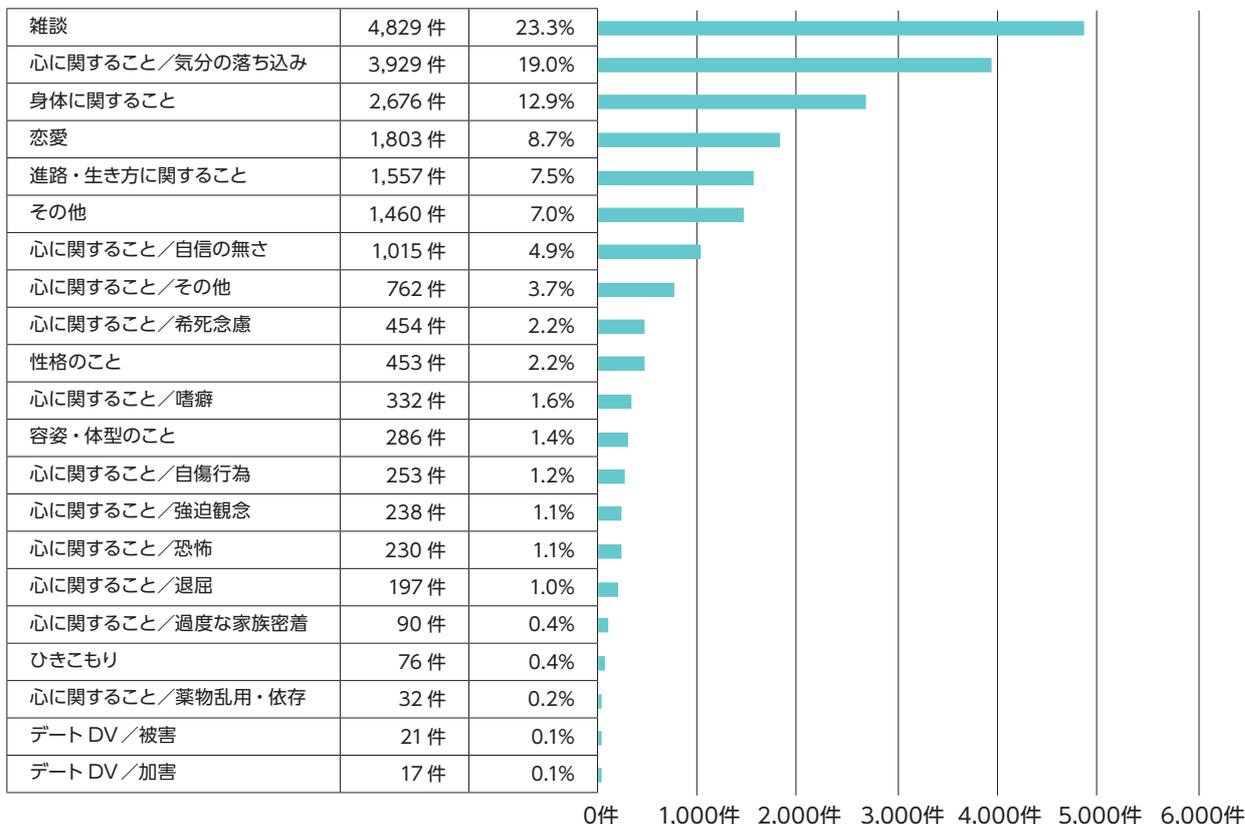
「自分自身」の項目で一番多かったのは「雑談」で23.3%でした。複数の項目で「人間関係」が多くなっています。



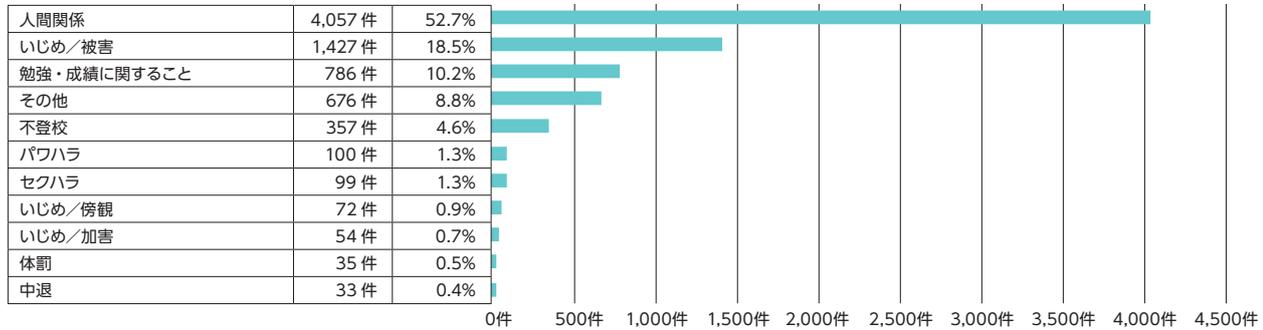
大項目	2020年度		2019年度	
	件数	比率	件数	比率
自分自身	20,711件	49.4%	22,390件	44.7%
学校	7,697件	18.4%	11,100件	22.2%
性	6,906件	16.5%	8,345件	16.7%
家庭	4,673件	11.1%	5,580件	11.1%
部活	622件	1.5%	1,129件	2.3%
地域	598件	1.4%	780件	1.6%
ネットトラブル	447件	1.1%	473件	0.9%
職場	287件	0.7%	285件	0.6%
合計	41,941件		50,082件	

※2019年度の数値は「2020チャイルドライン年次報告」より。
 ※「学校」には学校以外の居場所・フリースクール等を含めている。

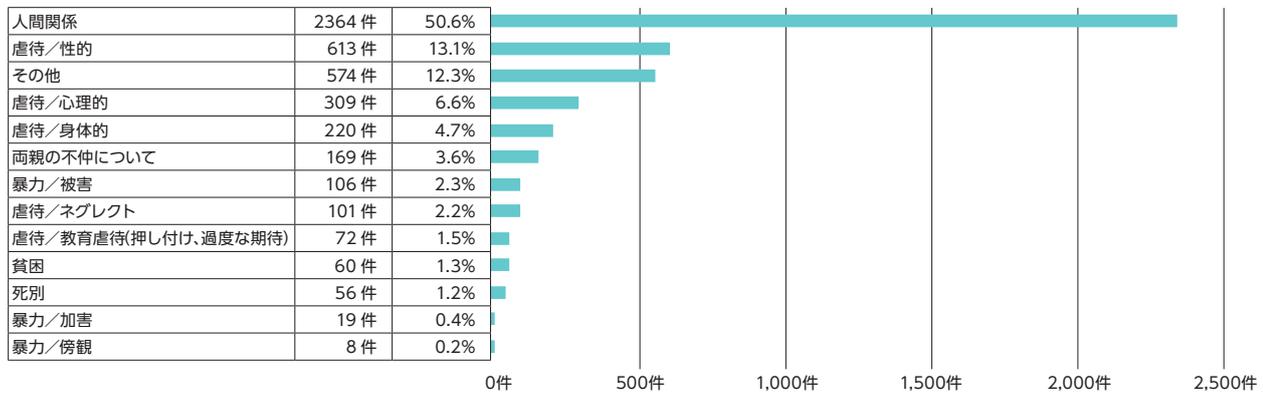
自分自身



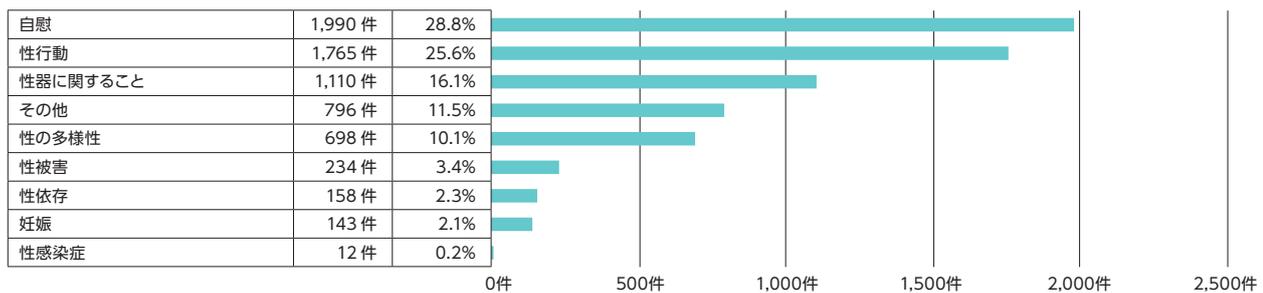
学校



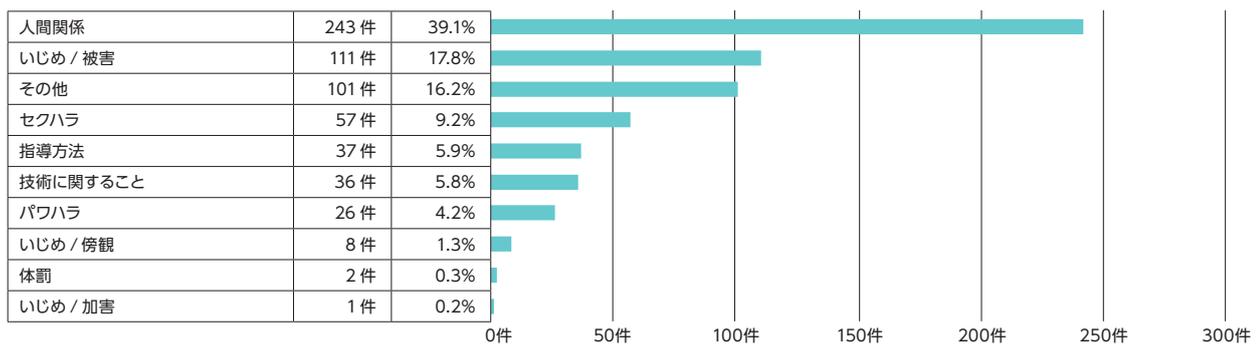
家庭



性



部活

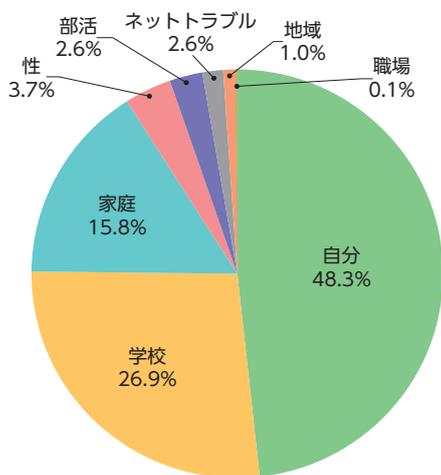


主訴

オンラインチャット

「自分自身」が48.3%と一番多く、「学校」「家庭」の順になっています。また、昨年度に比べて「学校」の比率が減り、その分「自分自身」の比率が増えています。(2020年度の件数は実施団体数の増加のため大きく増えています。)2020年度はCOVID-19の影響で約3ヶ月休校となったために「学校」に関する内容が減り、「自分自身」を見つめる時間が増えたものと考えられます。

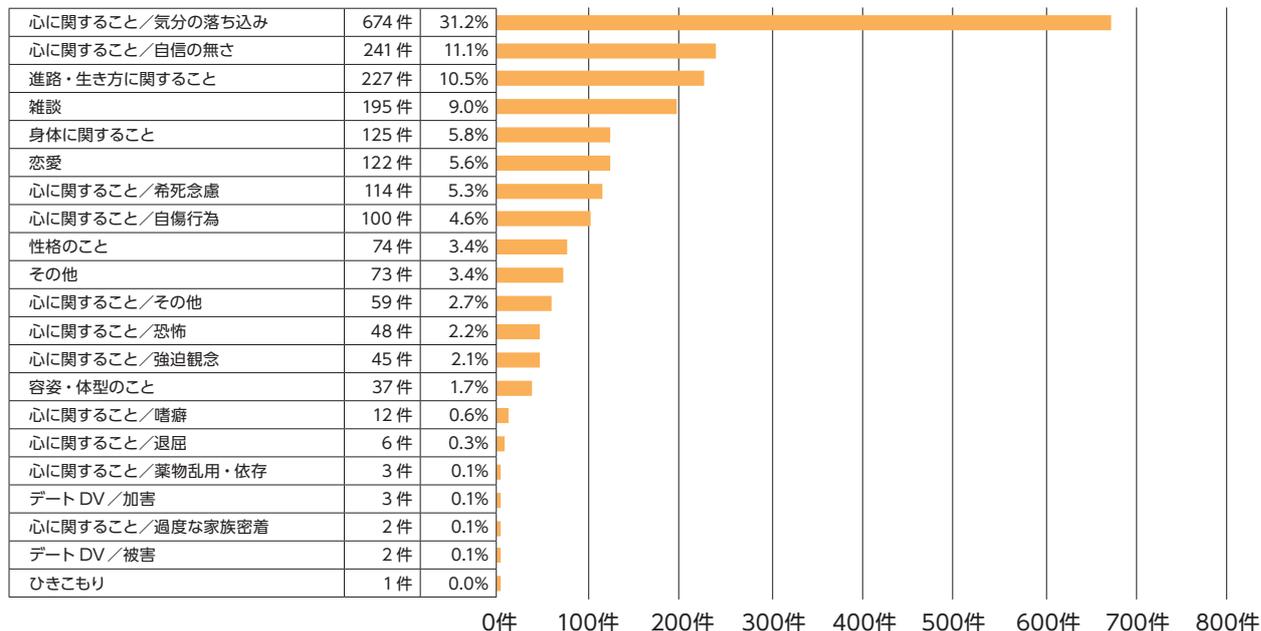
「自分自身」の内訳では「心に関すること/気分の落ち込み」が31.2%と最も多く、その他の複数の項目で「人間関係」が多くなっています。



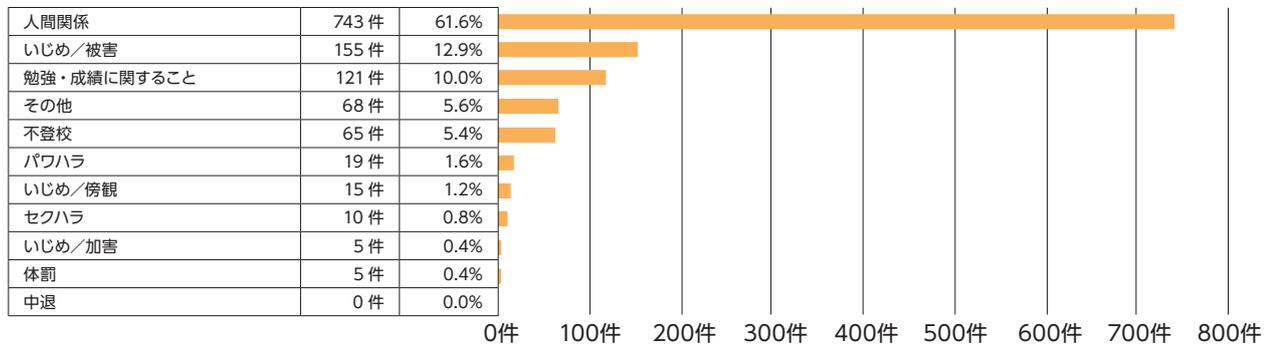
大項目	2020年度		2019年度	
	件数	比率	件数	比率
自分	2,163件	48.3%	1,331件	45.0%
学校	1,206件	26.9%	940件	31.8%
家庭	709件	15.8%	390件	13.2%
性	166件	3.7%	132件	4.5%
部活	116件	2.6%	94件	3.2%
ネットトラブル	73件	1.6%	39件	1.3%
地域	44件	1.0%	24件	0.8%
職場	5件	0.1%	8件	0.3%
合計	4,482件		2,958件	

※2019年度の数値は「2020チャイルドライン年次報告」より。
 ※「学校」には学校以外の居場所・フリースクール等を含めている。

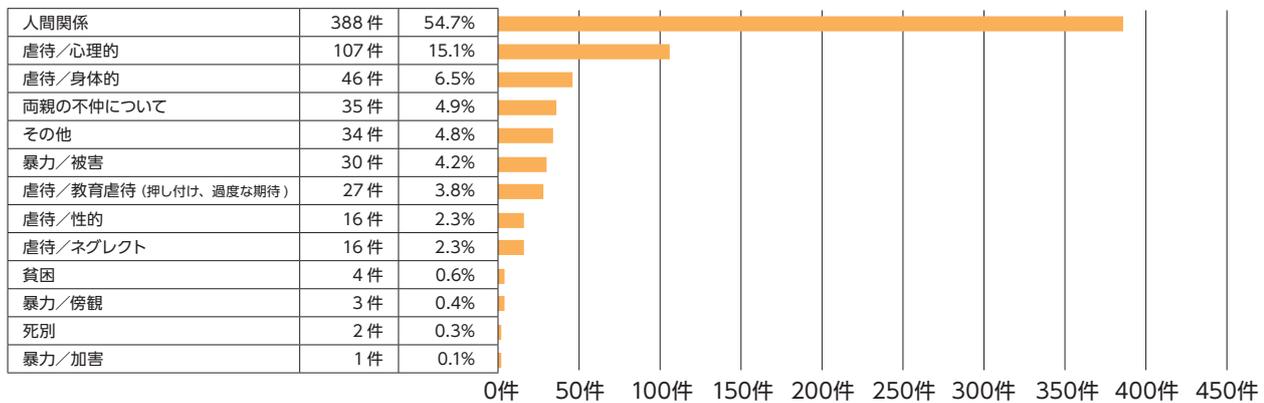
自分自身



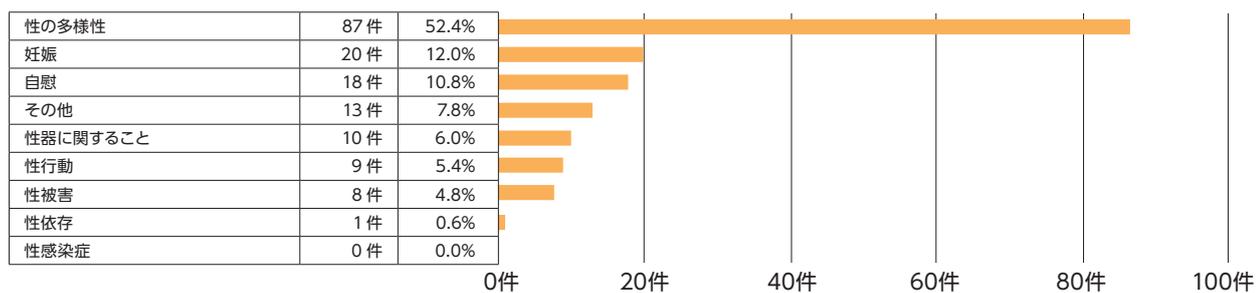
学校



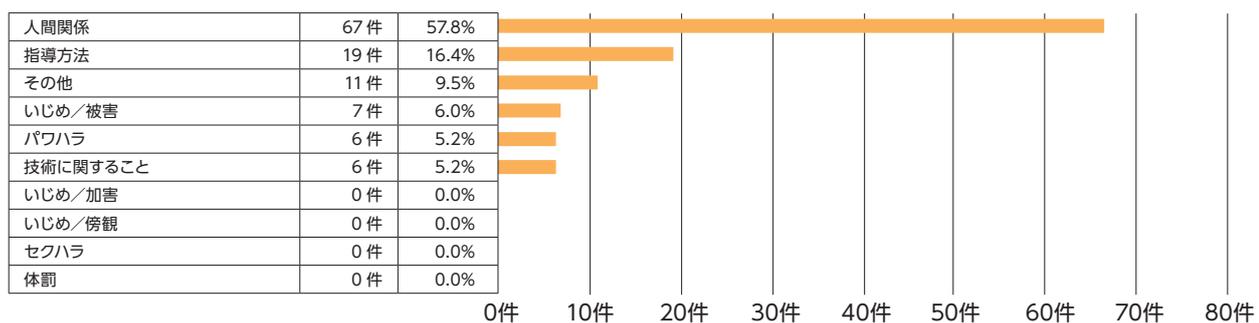
家庭



性



部活



深刻な主訴

子どもからの電話やオンラインチャットの中で、深刻なものと思われるデータをまとめました。

電話

深刻な主訴の割合では「いじめ」「虐待」が多くなっています。「性的虐待」「性被害」「自傷行為」「ネットトラブル(依存)」の項目は前年より割合が増えています。「いじめ」「不登校」の割合が減っているのは、COVID-19の影響で約3ヶ月休校になったことが要因のひとつと考えられます。また、深刻な主訴全体としては、前年より1.4ポイント減少しています。

主訴	男子	女子	不明	計	2020年度割合	2019年度	2019年度割合	前年度比
いじめ	885件	810件	16件	1,711件	4.1%	2,582件	5.2%	-1.1ポイント
加害	32件	26件	1件	59件	0.1%	74件	0.1%	-0.0ポイント
傍観	25件	57件	0件	82件	0.2%	143件	0.3%	-0.1ポイント
被害	828件	727件	15件	1,570件	3.7%	2,365件	4.7%	-1.0ポイント
虐待	630件	674件	11件	1,315件	3.1%	1,493件	3.0%	0.1ポイント
身体的	58件	161件	1件	220件	0.5%	265件	0.5%	-0.0ポイント
心理的	84件	219件	6件	309件	0.7%	416件	0.8%	-0.1ポイント
性的	449件	160件	4件	613件	1.5%	567件	1.1%	0.4ポイント
ネグレクト	12件	89件	0件	101件	0.2%	127件	0.3%	-0.1ポイント
教育虐待	27件	45件	0件	72件	0.2%	118件	0.2%	0.0ポイント
犯罪・暴力	39件	23件	0件	62件	0.1%	90件	0.2%	-0.1ポイント
家庭内暴力	46件	84件	3件	133件	0.3%	165件	0.3%	-0.0ポイント
パワハラ	64件	90件	2件	156件	0.4%	248件	0.5%	-0.1ポイント
セクハラ	135件	48件	3件	186件	0.4%	270件	0.5%	-0.1ポイント
性被害	137件	93件	4件	234件	0.6%	240件	0.5%	0.1ポイント
デートDV	18件	20件	0件	38件	0.1%	42件	0.1%	0.0ポイント
加害	11件	6件	0件	17件	0.0%	15件	0.0%	0.0ポイント
被害	7件	14件	0件	21件	0.1%	27件	0.1%	-0.0ポイント
体罰	22件	15件	2件	39件	0.1%	71件	0.1%	-0.0ポイント
不登校	108件	247件	2件	357件	0.9%	552件	1.1%	-0.3ポイント
ひきこもり	49件	25件	2件	76件	0.2%	97件	0.2%	-0.0ポイント
希死念慮	91件	356件	7件	454件	1.1%	615件	1.2%	-0.1ポイント
自傷行為	22件	230件	1件	253件	0.6%	249件	0.5%	0.1ポイント
薬物乱用・依存	15件	17件	0件	32件	0.1%	44件	0.1%	-0.0ポイント
ネットトラブル	192件	229件	2件	423件	1.0%	477件	1.0%	0.0ポイント
拡散	24件	37件	0件	61件	0.1%	80件	0.2%	-0.1ポイント
出合い系	22件	15件	0件	37件	0.1%	39件	0.1%	0.0ポイント
料金	12件	13件	0件	25件	0.1%	41件	0.1%	-0.0ポイント
依存	13件	20件	0件	33件	0.1%	18件	0.0%	0.1ポイント
その他	121件	144件	2件	267件	0.6%	299件	0.6%	0.0ポイント
深刻な主訴総数	2,453件	2,961件	55件	5,469件	13.0%	7,235件	14.4%	-1.4ポイント
会話成立(子ども)数				41,941件		50,082件		

オンラインチャット

会話成立件数における深刻な主訴の割合が18.9%で、深刻な話をする子どもの割合が電話より多くなっています。「いじめ」の割合が減り、「虐待」「家庭内暴力」「自傷行為」「ネットトラブル」などの割合が前年度より多くなりました。これらの要因としては、COVID-19の影響で約3ヶ月休校になったこと、リモートワークとなり家族が家で過ごす時間が増えたことなどが考えられます。

主訴	男子	女子	不明	計	2020年度割合	2019年度	2019年度割合	前年度比
いじめ	24件	157件	6件	187件	4.2%	182件	6.2%	-2.0ポイント
加害	3件	4件	0件	7件	0.2%	1件	0.0%	0.2ポイント
傍観	2件	13件	0件	15件	0.3%	14件	0.5%	-0.2ポイント
被害	19件	140件	6件	165件	3.7%	167件	5.6%	-1.9ポイント
虐待	29件	174件	9件	212件	4.7%	126件	4.3%	0.4ポイント
身体的	10件	35件	1件	46件	1.0%	36件	1.2%	-0.2ポイント
心理的	10件	91件	6件	107件	2.4%	63件	2.1%	0.3ポイント
性的	0件	16件	0件	16件	0.4%	7件	0.2%	0.2ポイント
ネグレクト	6件	10件	0件	16件	0.4%	9件	0.3%	0.1ポイント
教育虐待	3件	22件	2件	27件	0.6%	11件	0.4%	0.2ポイント
犯罪・暴力	0件	7件	0件	7件	0.2%	5件	0.2%	-0.0ポイント
家庭内暴力	6件	26件	2件	34件	0.8%	16件	0.5%	0.3ポイント
パワハラ	4件	20件	1件	25件	0.6%	24件	0.8%	-0.2ポイント
セクハラ	1件	9件	0件	10件	0.2%	6件	0.2%	0.0ポイント
性被害	1件	6件	1件	8件	0.2%	5件	0.2%	0.0ポイント
デートDV	2件	3件	1件	5件	0.1%	9件	0.3%	-0.2ポイント
加害	0件	3件	0件	3件	0.1%	1件	0.0%	0.1ポイント
被害	2件	0件	1件	2件	0.0%	8件	0.3%	-0.3ポイント
体罰	4件	1件	0件	5件	0.1%	5件	0.2%	-0.1ポイント
不登校	2件	60件	3件	65件	1.5%	75件	2.5%	-1.0ポイント
ひきこもり	0件	1件	0件	1件	0.0%	5件	0.2%	-0.2ポイント
希死念慮	6件	96件	12件	114件	2.5%	71件	2.4%	0.1ポイント
自傷行為	6件	86件	8件	100件	2.2%	48件	1.6%	0.6ポイント
薬物乱用・依存	1件	2件	0件	3件	0.1%	1件	0.0%	0.1ポイント
ネットトラブル	14件	46件	10件	70件	1.6%	36件	1.2%	0.4ポイント
拡散	3件	5件	2件	10件	0.2%	8件	0.3%	-0.1ポイント
出合い系	2件	5件	0件	7件	0.2%	3件	0.1%	0.1ポイント
料金	0件	3件	0件	3件	0.1%	2件	0.1%	-0.0ポイント
依存	0件	4件	0件	4件	0.1%	3件	0.1%	-0.0ポイント
その他	9件	29件	8件	46件	1.0%	20件	0.7%	0.4ポイント
深刻な主訴総数	100件	694件	53件	846件	18.9%	614件	20.8%	-1.9ポイント
会話成立(子ども)数				4,482件		2,958件		

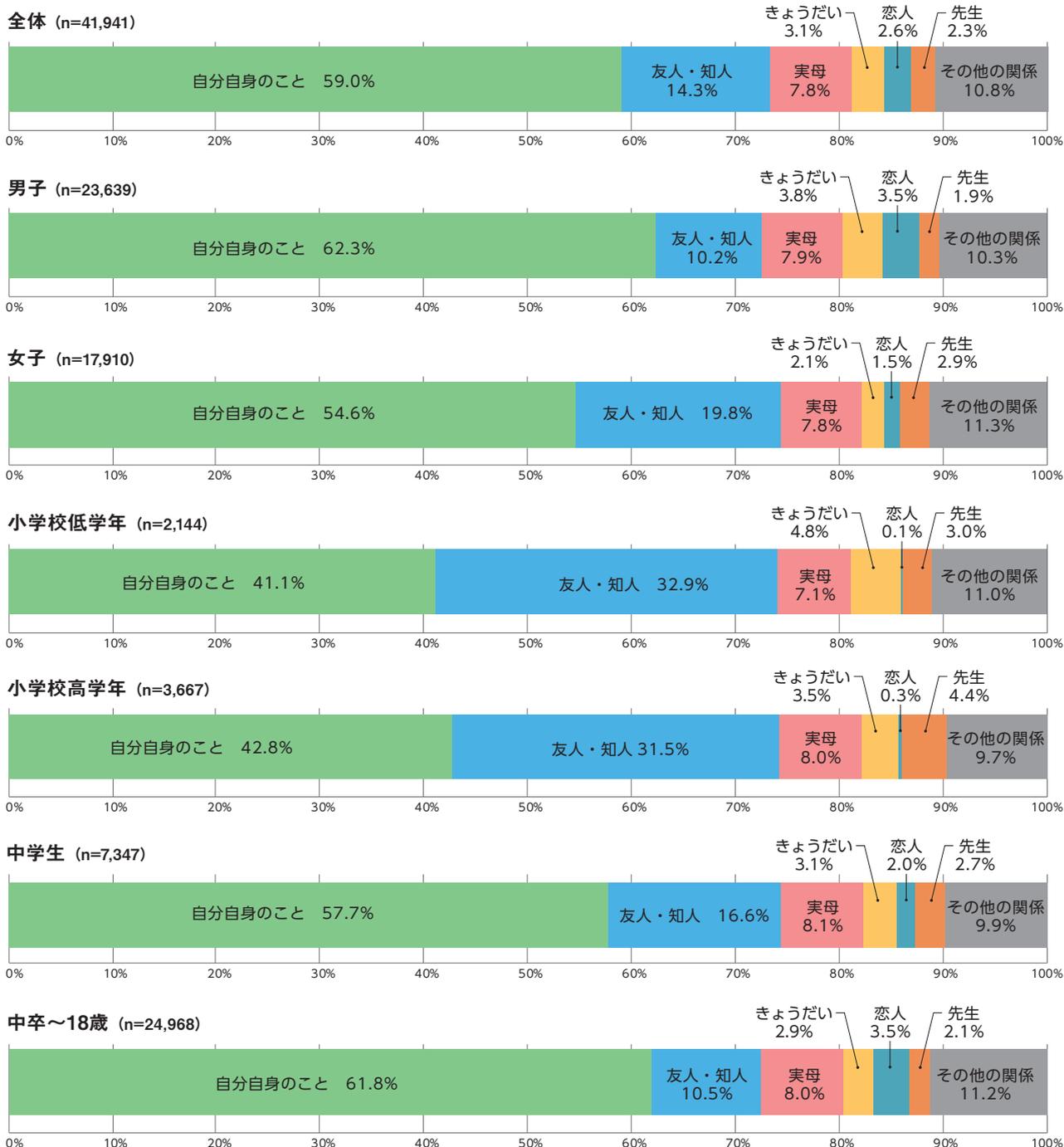
※ 2019年度「会話成立(子ども)数」は「2020チャイルドライン年末報告」より。

関係性

子どもの話した内容が、誰のことなのか、または誰との関係で起きていることなのかをまとめました。

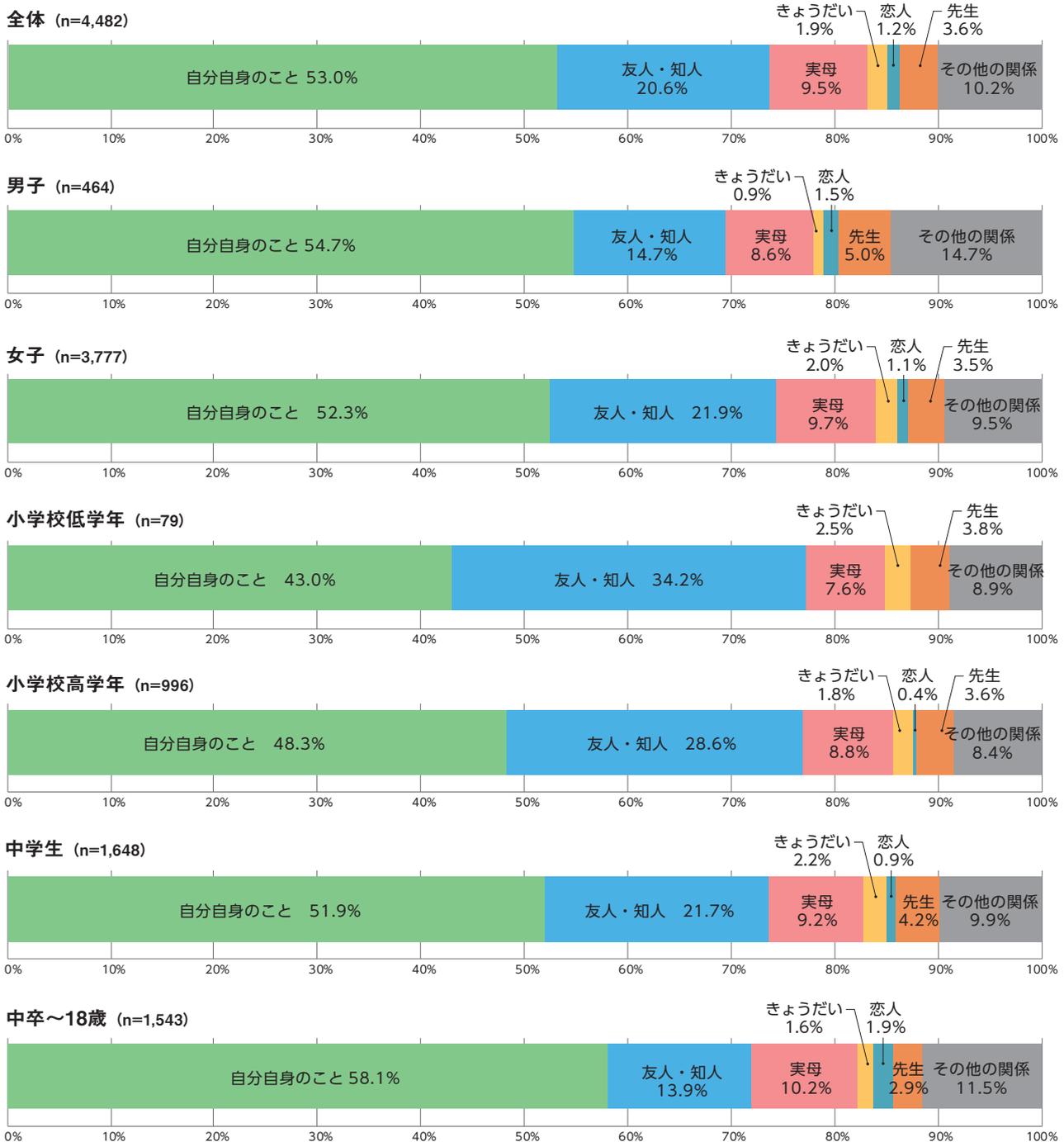
電話

全体に「自分自身のこと」が多くなっていますが、男女別では男子が62.3%と多くなっています。女子は男子に比べて「友人・知人」の割合が多くなっています。また、年齢が上がるにつれて「自分自身のこと」が多くなり「友人・知人」が減っています。



オンラインチャット

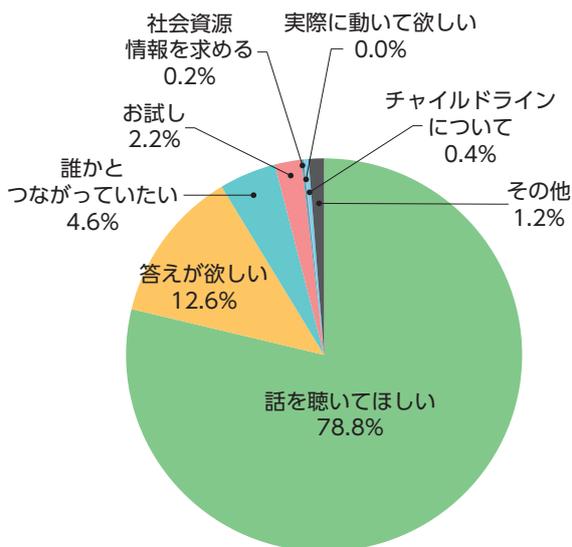
電話と同様に「自分自身のこと」が最も多くなっています。男子は電話と比べて「自分自身のこと」が少なく「友人・知人」「その他の関係」が多くなっています。



動機

電話

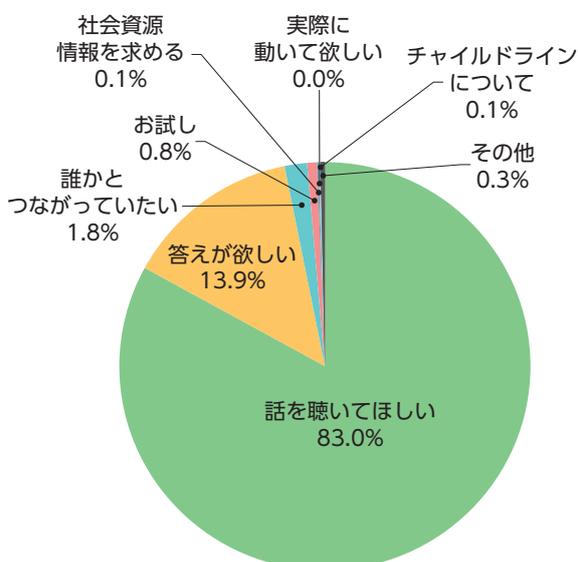
受け手が感じた子どもが電話をかけた動機は「話を聴いてほしい」が78.7%、次いで「答えが欲しい」が12.6%になっています。「話を聴いてほしい」「誰かとつながりたい」を合わせた83.4%以上の子どもが「話し相手」を求めていると考えられます。男女、またどの年齢層においても同じ傾向です。



	件数	比率
話を聴いてほしい	33,033件	78.8%
答えが欲しい	5,285件	12.6%
誰かとつながっていたい	1,947件	4.6%
お試し	915件	2.2%
社会資源情報を求める	75件	0.2%
実際に動いて欲しい	19件	0.0%
チャイルドラインについて	148件	0.4%
その他	519件	1.2%
合計	41,941件	100.0%

オンラインチャット

オンラインチャットでも「話を聴いてほしい」が83.0%で最も多く、電話よりも割合が高くなっています。次いで「答えが欲しい」が13.9%です。「話を聴いてほしい」「誰かとつながりたい」を合わせた84.8%の子どもが話し相手を求めていると考えられます。また電話と同様、男女、どの年齢層においても同じ傾向です。



	件数	比率
話を聴いてほしい	3,720件	83.0%
答えが欲しい	621件	13.9%
誰かとつながっていたい	79件	1.8%
お試し	35件	0.8%
社会資源情報を求める	5件	0.1%
実際に動いて欲しい	2件	0.0%
チャイルドラインについて	5件	0.1%
その他	15件	0.3%
合計	4,482件	100.0%

気持ち

電話

男女ともに「不安」が最も多く、次いで男子は「困惑・困っている」女子は「つらい・苦しい」が多くなっています。また、小学生は「イヤだ」「困惑・困っている」に次いで「うれしい・たのしい」が多くなっています。

n=41,941

性別	男	女	不明	全体
うれしい・たのしい	4.1%	3.8%	7.9%	4.0%
幸せ	0.5%	0.3%	0.3%	0.4%
楽しみ・期待	1.9%	1.5%	2.8%	1.8%
満足・充実感	0.8%	0.4%	0.0%	0.6%
怒り・いらだち	3.2%	4.1%	2.8%	3.6%
憂鬱	2.7%	3.5%	2.0%	3.0%
不安	16.6%	16.8%	13.5%	16.6%
イヤだ	7.7%	11.3%	14.0%	9.3%
疲れ	0.9%	2.0%	1.0%	1.4%
あきらめ	0.6%	0.9%	0.0%	0.8%
つらい・苦しい	5.9%	14.9%	7.9%	9.8%
悲しい	0.9%	3.3%	2.0%	2.0%
孤独・寂しさ	4.0%	4.3%	3.6%	4.1%
人目が気になる	1.5%	1.2%	1.0%	1.4%
自分に自信がない	2.3%	2.6%	2.8%	2.4%
恐怖・怖い	1.1%	2.6%	2.0%	1.7%
くやしい	1.0%	1.4%	1.0%	1.1%
困惑・困っている	14.8%	9.4%	9.7%	12.5%
葛藤・迷い・戸惑い	11.6%	6.5%	5.4%	9.3%
傷つきたくない	0.4%	0.9%	0.8%	0.6%
傷つけたくない	0.2%	0.3%	0.0%	0.3%
不明	11.3%	4.0%	13.0%	8.2%
その他	5.9%	3.8%	6.4%	5.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢 / 気持ち	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	全体
うれしい・たのしい	14.1%	13.2%	5.6%	4.0%	3.0%	3.7%	4.0%
幸せ	0.0%	0.4%	0.3%	0.4%	0.5%	0.3%	0.4%
楽しみ・期待	2.6%	2.5%	2.5%	1.4%	1.7%	1.8%	1.8%
満足・充実感	0.0%	1.0%	0.5%	0.4%	0.7%	0.6%	0.6%
怒り・いらだち	2.6%	2.6%	3.2%	2.7%	4.2%	2.3%	3.6%
憂鬱	2.6%	1.5%	2.4%	3.4%	3.1%	2.9%	3.0%
不安	9.0%	8.7%	12.1%	18.2%	18.0%	13.7%	16.6%
イヤだ	10.3%	22.4%	17.3%	10.9%	6.9%	6.5%	9.3%
疲れ	0.0%	0.5%	1.3%	1.3%	1.6%	1.3%	1.4%
あきらめ	1.3%	0.4%	0.5%	0.8%	0.8%	0.6%	0.8%
つらい・苦しい	3.8%	6.1%	7.6%	12.8%	10.0%	6.3%	9.8%
悲しい	3.8%	4.2%	4.5%	2.1%	1.4%	1.5%	2.0%
孤独・寂しさ	7.7%	4.3%	4.9%	3.9%	4.0%	4.3%	4.1%
人目が気になる	0.0%	0.4%	1.2%	1.4%	1.5%	1.4%	1.4%
自分に自信がない	1.3%	0.9%	1.7%	2.3%	2.8%	1.7%	2.4%
恐怖・怖い	1.3%	2.7%	2.8%	2.0%	1.4%	1.6%	1.7%
くやしい	0.0%	1.3%	1.5%	1.5%	1.1%	0.6%	1.1%
困惑・困っている	14.1%	13.3%	15.0%	12.2%	12.3%	11.3%	12.5%
葛藤・迷い・戸惑い	5.1%	2.8%	4.8%	8.2%	11.3%	6.9%	9.3%
傷つきたくない	1.3%	0.6%	0.4%	0.7%	0.7%	0.3%	0.6%
傷つけたくない	0.0%	0.3%	0.4%	0.2%	0.3%	0.2%	0.3%
不明	15.4%	4.9%	4.9%	4.8%	7.9%	22.4%	8.2%
その他	3.8%	5.1%	4.5%	4.2%	4.9%	7.9%	5.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

オンラインチャット

「つらい・苦しい」が23.4%とほぼ4分の1が「つらい」気持ちでアクセスしていることがわかります。電話で多かった「不安」「困惑・困っている」「イヤだ」はオンラインチャットでも多くなっています。「うれしい・たのしい」「幸せ」「楽しみ・期待」などのポジティブな気持ちは電話より少ない傾向です。

n=4,482

性別	男	女	不明	全体
うれしい・たのしい	2.2%	1.0%	0.8%	1.1%
幸せ	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
楽しみ・期待	1.7%	0.7%	0.4%	0.8%
満足・充実感	0.0%	0.2%	0.0%	0.1%
怒り・いらだち	3.4%	3.0%	3.7%	3.1%
憂鬱	3.0%	4.0%	2.9%	3.8%
不安	15.1%	15.9%	16.6%	15.8%
イヤだ	12.1%	11.5%	8.7%	11.4%
疲れ	0.9%	1.7%	2.5%	1.6%
あきらめ	0.4%	0.9%	2.5%	1.0%
つらい・苦しい	18.3%	24.6%	14.1%	23.4%
悲しい	1.5%	2.6%	1.2%	2.5%
孤独・寂しさ	1.5%	2.2%	2.9%	2.1%
人目が気になる	0.4%	1.6%	1.2%	1.5%
自分に自信がない	3.4%	4.1%	4.1%	4.0%
恐怖・怖い	5.2%	4.5%	4.1%	4.6%
くやしい	1.5%	1.0%	0.8%	1.0%
困惑・困っている	11.9%	8.2%	11.6%	8.8%
葛藤・迷い・戸惑い	7.8%	6.5%	5.4%	6.6%
傷つきたくない	0.6%	0.5%	0.8%	0.6%
傷つけたくない	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%
不明	4.7%	2.2%	12.0%	3.0%
その他	4.1%	2.6%	2.9%	2.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

年齢 / 気持ち	未就学	小学校低学年	小学校高学年	中学生	中卒～18歳	不明	全体
うれしい・たのしい	0.0%	0.0%	2.5%	1.0%	0.4%	0.0%	1.1%
幸せ	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.0%	0.1%
楽しみ・期待	0.0%	1.3%	1.4%	0.6%	0.6%	1.4%	0.8%
満足・充実感	0.0%	0.0%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%	0.1%
怒り・いらだち	0.0%	1.3%	4.1%	3.0%	2.3%	5.1%	3.1%
憂鬱	0.0%	1.3%	4.4%	2.9%	4.7%	3.3%	3.8%
不安	0.0%	8.9%	13.4%	16.5%	17.3%	14.4%	15.8%
イヤだ	0.0%	27.8%	15.4%	10.9%	8.9%	9.8%	11.4%
疲れ	0.0%	0.0%	1.0%	2.0%	1.7%	1.9%	1.6%
あきらめ	0.0%	0.0%	0.9%	1.0%	1.0%	1.4%	1.0%
つらい・苦しい	0.0%	3.8%	16.1%	25.0%	28.9%	13.5%	23.4%
悲しい	0.0%	6.3%	3.3%	2.4%	1.6%	3.3%	2.5%
孤独・寂しさ	0.0%	6.3%	2.7%	1.7%	1.8%	3.7%	2.1%
人目が気になる	0.0%	0.0%	1.0%	1.5%	1.7%	2.3%	1.5%
自分に自信がない	0.0%	1.3%	4.0%	4.2%	4.2%	1.9%	4.0%
恐怖・怖い	0.0%	8.9%	3.9%	4.9%	4.3%	5.6%	4.6%
くやしい	0.0%	1.3%	0.9%	1.2%	0.9%	0.5%	1.0%
困惑・困っている	0.0%	16.5%	11.6%	8.9%	6.2%	10.2%	8.8%
葛藤・迷い・戸惑い	0.0%	5.1%	5.1%	6.6%	7.6%	7.0%	6.6%
傷つきたくない	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	0.7%	0.5%	0.6%
傷つけたくない	0.0%	1.3%	0.3%	0.2%	0.2%	0.0%	0.2%
不明	100.0%	5.1%	3.3%	2.1%	2.2%	12.1%	3.0%
その他	0.0%	3.8%	4.0%	2.5%	2.4%	2.3%	2.8%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

都道府県別カード配布状況 日本全国の子どもに届けたカードは 1,130 万枚

子どもたちにチャイルドラインを知ってもらい、必要と思ったときにつながれるように、各都道府県、市町村の教育委員会、学校のご協力を得て、チャイルドラインへのアクセス方法を記載した名刺サイズのカードを配布しています。

全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などの在学者1,288万人を対象に1,130万枚のカードを配布しました。

都道府県	カード配布枚数	子ども人口	カード枚数/子ども人口比	2020年度発信数	人口あたりの発信数
北海道	560,000枚	485,824名	115.3%	13,711件	2.8%
青森県	37,424枚	119,622名	31.3%	1,977件	1.7%
秋田県	100,000枚	86,579名	115.5%	1,584件	1.8%
岩手県	123,600枚	125,665名	98.4%	2,888件	2.3%
宮城県	50,500枚	233,158名	21.7%	9,652件	4.1%
山形県	0枚	108,937名	0.0%	8,545件	7.8%
福島県	334,000枚	186,997名	178.6%	4,555件	2.4%
新潟県	10,000枚	219,290名	4.6%	7,242件	3.3%
長野県	371,499枚	221,996名	167.3%	14,646件	6.6%
群馬県	225,200枚	201,721名	111.6%	7,235件	3.6%
栃木県	211,141枚	205,668名	102.7%	4,610件	2.2%
茨城県	441,000枚	313,788名	140.5%	7,686件	2.4%
東京都	820,690枚	1,243,850名	66.0%	69,923件	5.6%
神奈川県	1,193,600枚	898,247名	132.9%	38,999件	4.3%
千葉県	200,000枚	628,600名	31.8%	16,624件	2.6%
埼玉県	916,690枚	674,680名	135.9%	30,193件	4.5%
山梨県	110,000枚	87,342名	125.9%	1,786件	2.0%
愛知県	798,600枚	823,523名	97.0%	81,341件	9.9%
静岡県	165,000枚	387,181名	42.6%	6,137件	1.6%
岐阜県	10,000枚	218,112名	4.6%	11,625件	5.3%
三重県	665,730枚	187,909名	354.3%	25,121件	13.4%
富山県	120,000枚	103,632名	115.8%	3,740件	3.6%
石川県	140,000枚	120,963名	115.7%	3,684件	3.0%
福井県	57,000枚	84,261名	67.6%	2,419件	2.9%
大阪府	244,625枚	890,687名	27.5%	54,070件	6.1%
京都府	306,100枚	264,904名	115.6%	6,706件	2.5%
滋賀県	100,000枚	163,717名	61.1%	10,394件	6.3%
奈良県	0枚	144,147名	0.0%	1,024件	0.7%
和歌山県	3,000枚	94,636名	3.2%	18,293件	19.3%
兵庫県	331,500枚	568,330名	58.3%	22,655件	4.0%
岡山県	70,000枚	203,939名	34.3%	9,824件	4.8%
広島県	421,000枚	301,348名	139.7%	8,948件	3.0%
島根県	80,000枚	72,465名	110.4%	2,398件	3.3%
鳥取県	74,930枚	58,893名	127.2%	3,038件	5.2%
山口県	21,000枚	137,650名	15.3%	712件	0.5%
香川県	162,100枚	102,191名	158.6%	570件	0.6%
徳島県	82,000枚	71,280名	115.0%	731件	1.0%
高知県	64,000枚	67,609名	94.7%	1,210件	1.8%
愛媛県	100,000枚	138,519名	72.2%	531件	0.4%
福岡県	280,000枚	554,853名	50.5%	12,652件	2.3%
佐賀県	150,200枚	95,505名	157.3%	3,083件	3.2%
長崎県	101,000枚	128,471名	78.6%	7,949件	6.2%
熊本県	304,000枚	195,528名	155.5%	3,400件	1.7%
大分県	276,000枚	119,615名	230.7%	2,017件	1.7%
宮崎県	180,000枚	121,436名	148.2%	2,072件	1.7%
鹿児島県	9,740枚	192,474名	5.1%	1,525件	0.8%
沖縄県	307,000枚	219,285名	140.0%	2,627件	1.2%
合計	11,329,869枚	12,878,562名			

※子ども人口：2020年度都道府県教育委員会学校基本調査より。

カードは、全国の実施団体がそれぞれの地域の教育委員会と関係を構築し、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校などに配布しています。そのための費用や、各学校の負担を軽減するためのクラス別仕分け作業なども実施団体が担っています。

実施団体のない6県（茨城、兵庫、香川、佐賀、熊本、沖縄）については、企業や一般のボランティアのご協力により配布しています。その際にはチャイルドラインの紹介、活動の状況や子どもの状況、聴くこと、寄り添うことの大切さもあわせてお伝えしています。

企業・他団体との協働

社会貢献活動としてご支援をいただいている企業との協働により、カードの発送作業を実施しています。COVID-19の影響で例年通りの協働には至りませんでした。各社工夫してくださり、社員のみなさまには昼休みや終業後などにボランティア活動として参加していただきました。



配布先	カード枚数	配布時期	配布協力
佐賀県	150,200	9月	事務局スタッフ、ボランティア
香川県	162,100	11月	ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社、事務局スタッフ、ボランティア
沖縄県	307,000	10月 11月	東京海上ビジネスサポート株式会社 他
熊本県	304,000	11月	東京海上日動火災株式会社、東京海上ビジネスサポート株式会社 他
茨城県	441,000	2月	事務局アルバイト
兵庫県	331,500	3月	事務局アルバイト
合計	1,695,800		

- ◆全国の小児科医院 5,800 ヶ所、児童館 2,800 館にポスターを掲示することで、学校外での周知も図っています。
(ご協力：公益財団法人小児科医会、一般財団法人児童健全育成推進財団)
- ◆全国の子ども食堂 167 ヶ所を通してチャイルドラインのカードを届けました。
(ご協力：認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ)
- ◆「#学校ムリでもここあるよ 2020 キャンペーン」に賛同し、フリースクール、子ども食堂など子どもの居場所へカードとポスターを配布しました。(キャンペーン期間：2020年8月17日～9月12日)

月別カード配布枚数とフリーダイヤル・オンラインチャットのアクセス数

2020年度はチャイルドラインの活動もCOVID-19に大きく影響されました。例年なら夏休み前の7月に一番配布枚数が多いのですが、4月から5月にかけて発出されていた緊急事態宣言のため活動が思うようにできず、162万枚でした。11月が一番多く248万枚で児童虐待防止推進月間に合わせてカード配布ができました。奇しくも小中高校生の自殺が過去最高になったと報道されたのも11月のことでした。その状況からもこの時期に子どもたちにカードが届いたことが、自殺予防の一助となっていたなと思います。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
カード配布枚数		841,800枚	150,700枚	460,012枚	1,619,746枚	494,740枚	716,554枚	1,306,233枚
子どもからのアクセス件数		81,706件	66,282件	48,930件	51,215件	45,618件	53,731件	53,020件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	74,618件	58,590件	42,354件	44,051件	38,436件	45,949件	45,150件
	オンラインチャット訪問件数	7,088件	7,692件	6,576件	7,164件	7,182件	7,782件	7,870件

		11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
カード配布枚数		2,475,915枚	1,153,992枚	763,782枚	604,665枚	741,730枚	11,329,869枚	944,156枚
子どもからのアクセス件数		49,445件	44,230件	47,693件	48,145件	47,360件	637,375件	53,115件
アクセスの内訳	フリーダイヤル発信数	42,958件	37,270件	41,201件	41,419件	40,356件	552,352件	46,029件
	オンラインチャット訪問件数	6,487件	6,960件	6,492件	6,726件	7,004件	85,023件	7,085件



チャイルドライン実施体制と運営

実施体制

チャイルドラインは、全国 68 団体とチャイルドライン支援センターが協働で実施しています。

実施団体は、電話・オンラインチャットの実施以外に、地域の子どもへの広報活動、地域への社会発信も担っています。

チャイルドライン支援センターは、全国の実施団体が受信した電話・オンラインチャットのデータをとりまとめ、全国に向けて社会発信するとともに、子どもが生きやすい環境を作るためチャイルドライン支援議員連盟などと連携し、関係省庁に働きかけています。

電話・オンラインチャットには、全国の実施団体がそれぞれの活動拠点で対応しています。

子どもからの電話は、全国の空いている回線に転送される仕組みになっており、実施団体がいない県や災害等で実施できなくなった団体の地域の子どもからの電話も全国の実施団体が受けることができます。

オンラインチャットは、全国 18 団体が実施しています（2021 年 7 月末現在）が、子どもからのニーズに応えるため、実施体制の強化をめざしています。

オンラインチャットも電話と同様の仕組みになっています。



実施団体の活動状況

〈運営形態〉

実施団体はそれぞれが独立した団体で、その運営形態は社団法人・NPO法人・任意団体など様々です。

任意団体	31 団体
NPO 法人	26 団体
認定 NPO 法人	8 団体
公益社団法人	1 団体
一般社団法人	1 団体
社会福祉法人	1 団体

〈ボランティア〉

ボランティア数 1,899 名（2021 年 3 月末現在）

昨年度（2,072 名）より約 170 名減少しました。COVID-19 の影響でボランティア養成講座が開催できなくなったり、活動に参加しにくい状況ができたためと考えられます。

ボランティアは、子どもの「声」を聴く「受け手」、受け手のケアを担う「支え手」、活動の運営などに関わっています。

〈活動資金〉

全国 68 団体の年間支出総額は約 1 億円。チャイルドライン支援センターと合わせると約 1 億 5 千万円以上となりました。

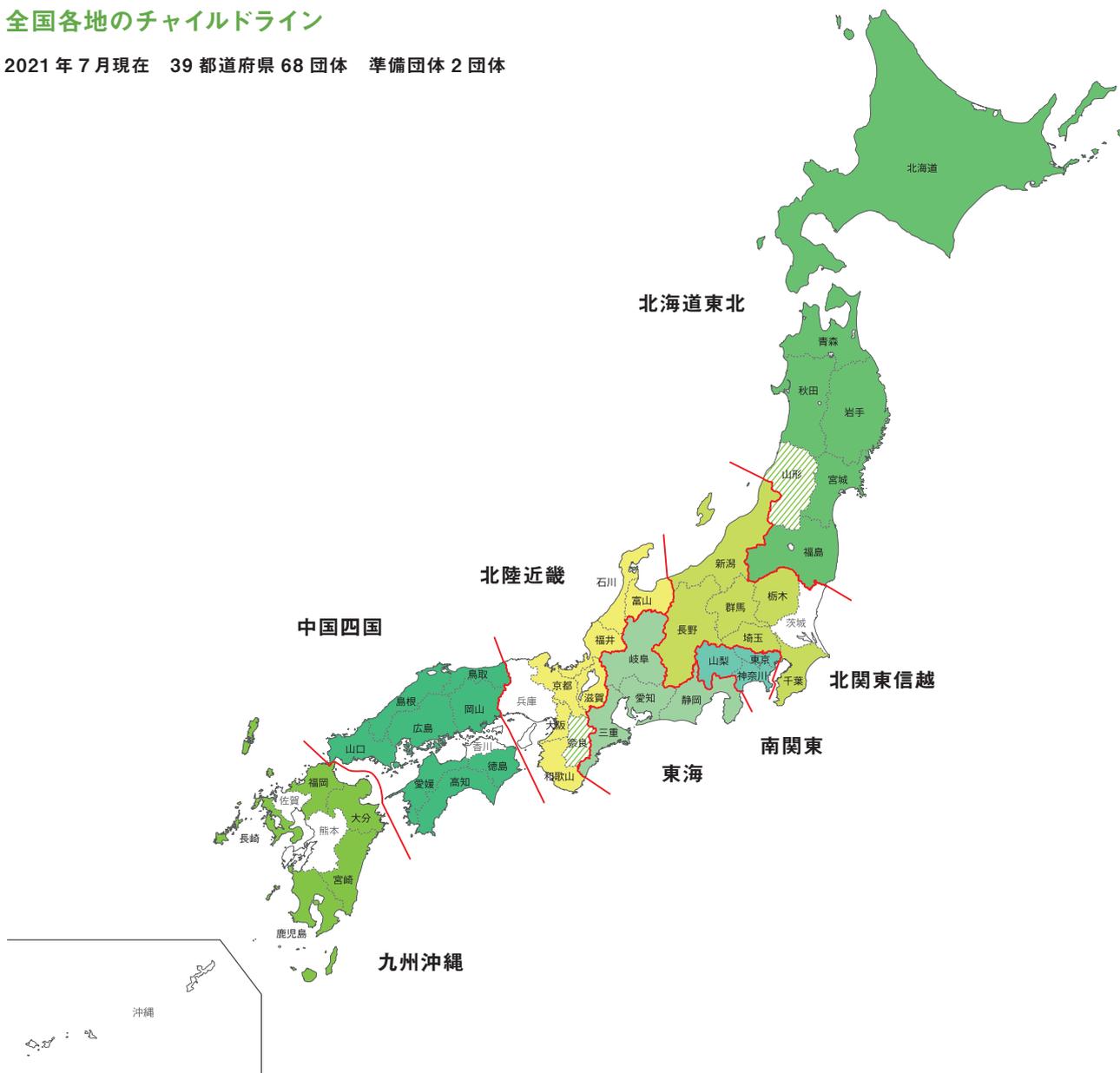
支出額	団体数	比率
1000 万円以上	1	1.5%
500 ～ 999 万円	3	4.4%
250 ～ 499 万円	6	8.8%
100 ～ 249 万円	14	20.6%
50 ～ 99.9 万円	15	22.1%
50 万円未満	27	39.7%

受け手や支え手等の活動はボランティアによって支えられています。一方、拠点や電話設置費用・子どもへの広報活動・社会発信費用などは、全国の多くの個人・企業・団体・行政の皆さまのご支援に支えられています。

チャイルドライン実施体制と運営

全国各地のチャイルドライン

2021年7月現在 39都道府県 68団体 準備団体2団体



エリア名	所在地		チャイルドライン名	団体名	連絡先
北海道東北	北海道	札幌市	チャイルドラインほっかいどう	認定NPO法人チャイルドラインほっかいどう	011-272-3755
	青森県	青森市	チャイルドラインあおもり	チャイルドラインあおもり	cl.aomori.2007@gmail.com
	岩手県	盛岡市	チャイルドラインいわて	チャイルドラインいわて	090-9748-7557
	宮城県	仙台市	チャイルドラインみやぎ	NPO法人チャイルドラインみやぎ	022-279-7210
	秋田県	秋田市	チャイルドラインあきた	NPO法人あきた子どもネット	090-2995-0313
	福島県	福島市	チャイルドラインふくしま	チャイルドラインふくしま	024-563-4191
北関東信越	新潟県	新潟市	チャイルドラインにいがた	チャイルドラインにいがた	090-6167-4158
		宇都宮市	チャイルドラインとちぎ	認定NPO法人チャイルドラインとちぎ	028-614-3253
	群馬県	前橋市	チャイルドラインぐんま	チャイルドラインぐんま	027-289-4365
	長野県	長野市	チャイルドラインながの	NPO法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト	090-9667-0874
		上田市	チャイルドラインうえだ	チャイルドラインうえだ運営委員会	090-3565-7086
		諏訪市	チャイルドラインすわ	NPO法人すわ子ども文化ステーション	0266-58-3494
	佐久市	チャイルドライン佐久	NPO法人チャイルドライン佐久	070-4189-0155	
	埼玉県	朝霞市	さいたまチャイルドライン	認定NPO法人さいたまチャイルドライン	048-486-7171
	千葉県	千葉市	チャイルドライン千葉	NPO法人子ども劇場千葉県センター	043-301-7262

エリア名	所在地		チャイルドライン名	団体名	連絡先
南関東	山梨県	韮崎市	チャイルドラインやまなし	チャイルドラインやまなし	0551-23-5145
	東京都	港区	みなとチャイルドライン	みなとチャイルドライン	090-7284-0378
		江東区	とうきょうかわのてチャイルドライン	NPO 法人こうとう親子センター	03-3632-1717
		品川区	しながわチャイルドライン	NPO 法人しながわチャイルドライン	03-5462-2868
		目黒区	めぐろチャイルドライン	NPO 法人めぐろチャイルドライン	03-6712-7773
		世田谷区	せたがやチャイルドライン	社会福祉法人世田谷ボランティア協会	03-5712-5101
		中野区	チャイルドライン 中野子ども電話	チャイルドライン 中野子ども電話	080-3919-0489
		杉並区	チャイルドラインすぎなみ	チャイルドラインすぎなみ	090-6012-3903
		八王子市	チャイルドライン八王子・子どもの電話★21	NPO 法人子どもネット「八王子」	042-683-0078
		八王子市	八王子チャイルドライン「ココロ」	NPO 法人八王子チャイルドライン	090-4417-3355
		立川市	チャイルドラインたちかわ	チャイルドラインたちかわ	042-531-5927 (FAX)
		武蔵野市	チャイルドラインむさしの	NPO 法人チャイルドラインむさしの	080-5679-5100
		狛江市	こまえチャイルドライン	こまえチャイルドライン	03-3489-4583
		神奈川県	横浜市	よこはまチャイルドライン	認定 NPO 法人よこはまチャイルドライン
	川崎市		かわさきチャイルドライン	かわさきチャイルドライン	080-6756-7763
東海	岐阜県	岐阜市	チャイルドラインぎふ	NPO 法人チャイルドラインぎふ	080-1550-6050
	静岡県	焼津市	しずおかチャイルドライン	NPO 法人静岡家庭教育サポート協会	054-631-6762
		浜松市	はままつチャイルドライン	はままつチャイルドライン	053-448-6129
	愛知県	名古屋	チャイルドラインあいち	NPO 法人チャイルドラインあいち	052-822-2801
		安城市	チャイルドラインみかわ	NPO 法人おやこでのびっこ安城	0566-77-7085
	三重県	津市	チャイルドライン MIE	認定 NPO 法人チャイルドヘルプライン MIE ネットワーク	059-211-0024
北陸近畿	富山県	富山市	とやまチャイルドライン	とやまチャイルドライン愛ランド	090-3764-3666
	石川県	金沢市	チャイルドライン・いしかわ	子ども夢フォーラム	076-214-5680
	福井県	福井市	ふくいチャイルドライン	認定 NPO 法人福井県子ども NPO センター	0776-97-8460
	滋賀県	大津市	しがチャイルドライン	NPO 法人 CASN	077-537-5922
	京都府	京都市	チャイルドライン京都	NPO 法人チャイルドライン京都	075-585-3038
	大阪府	大阪市	チャイルドライン OSAKA	公益社団法人子ども情報研究センター	06-4708-7087
		吹田市	チャイルドラインすいた	こらぼれチップス	06-6382-0290
		富田林市	チャイルドラインとんだばやし	一般社団法人富田林市人権教育・啓発推進センター	0721-20-0285
		和泉市	チャイルドラインいずみ	いずみこども AID	070-8467-2747
		東大阪市	チャイルドラインひがしおおさか	チャイルドラインひがしおおさか	childline.h@gmail.com
		阪南市	チャイルドラインはらっぱ	NPO 法人子ども NPO はらっぱ	072-471-2276
	和歌山県	和歌山市	チャイルドラインわかやま	子ども NPO 和歌山県センター	kodomonpowakayama@gmail.com
	中国四国	鳥取県	倉吉市	チャイルドラインうさぎのみみ	チャイルドラインうさぎのみみ
島根県		松江市	チャイルドラインしまね	NPO 法人チャイルドラインしまね	0852-24-9318
岡山県		岡山市	チャイルドラインおかやま	NPO 法人チャイルドラインおかやま	086-233-1731
		笠岡市	チャイルドラインかさおか	認定 NPO 法人ハーモニーネット未来	0865-63-4955
広島県		広島市	ひろしまチャイルドライン	NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション	082-233-8655
		福山市	チャイルドラインびんご	子どもサポネット「ハートフル」	090-8712-1803
山口県		宇部市	チャイルドラインやまぐち	NPO 法人子ども劇場山口県センター	0836-32-4287
		岩国市	チャイルドライン岩国ステーション	チャイルドライン岩国ステーション	080-1636-1135
		下関市	チャイルドラインしものせき	チャイルドラインしものせき	083-256-6888
徳島県		徳島市	とくしまチャイルドライン	とくしまチャイルドライン	0884-28-0559
愛媛県		松山市	子ども電話「ひびき」	チャイルドライン ハートコール・えひめ	089-923-9558
高知県	高知市	チャイルドラインこうち	チャイルドラインこうち	090-2788-9977	
九州沖縄	福岡県	北九州市	チャイルドライン北九州	NPO 法人チャイルドライン北九州	090-7924-5036
		福岡市	チャイルドライン「もしもしキモ子」	認定 NPO 法人チャイルドライン「もしもしキモ子」	092-734-1540
	長崎県	長崎市	チャイルドライン・ながさき	NPO 法人チャイルドラインながさき	095-801-5521
		佐世保市	チャイルドラインさせぼ	チャイルドラインさせぼ	0956-24-0214
	大分県	大分市	チャイルドラインおおい	チャイルドラインおおい	090-3322-3699
	宮崎県	宮崎市	チャイルドラインみやざき	NPO 法人チャイルドラインみやざき	0985-41-8228
鹿児島県	鹿児島市	チャイルドラインかごしま	チャイルドラインかごしま	080-2749-5523	

〈開設準備団体〉

山形県	庄内市	チャイルドライン庄内	NPO 法人しえぼ
奈良県	奈良市	チャイルドラインなら	チャイルドラインなら

チャイルドライン支援議員連盟

2020年11月25日、衆議院第2議員会館第3会議室において、チャイルドライン支援議員連盟総会が開催され、議員や内閣府・厚生労働省・文部科学省の職員の皆さんへ理事が活動報告及び提言をしました。

出席者：会長 河村建夫 幹事長代理 浮島智子 事務局長 泉健太(他25名)(敬称略)
 関係省庁：内閣府 厚生労働省 文部科学省



名前	政党	衆参	選挙区
安藤 高夫	自由民主党	衆	比例東京
伊東 良孝	自由民主党	衆	北海道7区
猪口 邦子	自由民主党	参	千葉
今井 絵理子	自由民主党	参	比例
上野 通子	自由民主党	参	栃木
江渡 聡徳	自由民主党	衆	比例東北
衛藤 征士郎	自由民主党	衆	大分2区
遠藤 利明	自由民主党	衆	山形1区
大岡 敏孝	自由民主党	衆	滋賀1区
上川 陽子	自由民主党	衆	静岡1区
河村 建夫	自由民主党	衆	山口3区
岸田 文雄	自由民主党	衆	広島1区
北村 誠吾	自由民主党	衆	長崎4区
工藤 彰三	自由民主党	衆	愛知4区
後藤田 正純	自由民主党	衆	徳島1区
坂本 哲志	自由民主党	衆	熊本3区
櫻井 充	無所属	参	宮城
佐々木 紀	自由民主党	衆	石川2区
左藤 章	自由民主党	衆	大阪2区
塩谷 立	自由民主党	衆	静岡8区
園浦 健太郎	自由民主党	衆	千葉5区
そのだ 修光	自由民主党	参	比例
武部 新	自由民主党	衆	北海道12区
福岡 勉	自由民主党	衆	比例九州
永岡 桂子	自由民主党	衆	比例北関東
中川 雅治	自由民主党	参	東京
野田 聖子	自由民主党	衆	岐阜1区
野中 厚	自由民主党	衆	埼玉12区
馳 浩	自由民主党	衆	石川1区
平井 たくや	自由民主党	衆	香川1区
藤井 比早之	自由民主党	衆	兵庫4区
船田 元	自由民主党	衆	栃木1区
松野 博一	自由民主党	衆	千葉3区
松本 純	無所属	衆	神奈川1区
山口 泰明	自由民主党	衆	埼玉10区
井上 義久	公明党	衆	比例東北
浮島 智子	公明党	衆	比例近畿
佐藤 英道	公明党	衆	比例北海道
高木 美智代	公明党	衆	比例東京
富田 茂之	公明党	衆	比例南関東
古屋 鶴子	公明党	衆	比例南関東
阿部 知子	立憲民主党	衆	神奈川12区
荒井 聡	立憲民主党	衆	北海道3区
石川 香織	立憲民主党	衆	北海道11区
泉 健太	立憲民主党	衆	京都3区
伊藤 俊輔	立憲民主党	衆	比例東京
枝野 幸男	立憲民主党	衆	埼玉5区
大河原 雅子	立憲民主党	衆	比例北関東
逢坂 誠二	立憲民主党	衆	北海道8区
大島 敦	立憲民主党	衆	埼玉6区
岡本 あき子	立憲民主党	衆	比例東北
岡本 充功	立憲民主党	衆	比例東海
小川 敏夫	立憲民主党	参	東京
柿沢 未途	無所属	衆	比例東京
小西 洋之	立憲民主党	参	千葉
田嶋 要	立憲民主党	衆	比例南関東
田名部 匡代	立憲民主党	参	青森
中川 正春	立憲民主党	衆	三重2区
中谷 一馬	立憲民主党	衆	比例南関東
原口 一博	立憲民主党	衆	佐賀1区
日吉 雄太	立憲民主党	衆	比例東海
福山 哲郎	立憲民主党	衆	京都
堀越 啓仁	立憲民主党	衆	比例北関東
牧 義夫	立憲民主党	衆	比例東海
増子 輝彦	無所属	参	福島
松原 仁	立憲民主党	衆	比例東京
道下 大樹	立憲民主党	衆	北海道1区
森山 浩行	立憲民主党	衆	比例近畿
山川 百合子	立憲民主党	衆	比例北関東
山崎 誠	立憲民主党	衆	比例東北
山井 和則	立憲民主党	衆	比例近畿
屋良 朝博	立憲民主党	衆	沖縄3区
蓮 舫	立憲民主党	参	東京
渡辺 周	立憲民主党	衆	静岡6区
梅村 みずほ	日本維新の会	参	大阪
鈴木 宗男	日本維新の会	参	比例
高橋 千鶴子	日本共産党	衆	比例東北
田村 智子	日本共産党	参	比例
畑野 君枝	日本共産党	衆	比例南関東
宮本 徹	日本共産党	衆	比例東京
喜田 由紀子	無所属	参	滋賀
ながえ 孝子	無所属	参	愛媛
船後 靖彦	れいわ新選組	参	比例
安達 澄	無所属	参	大分
初鹿 明博	無所属	衆	比例東京

■役員体制(所属政党) (敬称略)

- | | | | |
|--------------|------------------------|---------------|------------------------|
| 会長 | 河村 建夫(自民) | 事務局長 | 泉 健太(立民) |
| 副会長 | 岸田 文雄(自民)
高橋千鶴子(共産) | 事務局長次長 | 小西 洋之(立民) |
| 幹事長 | 馳 浩(自民) | 幹事 | 田嶋 要(立民) |
| 幹事長代理 | 浮島 智子(公明) | | 後藤田正純(自民)
阿部 知子(立民) |

チャイルドライン支援議員連盟はチャイルドライン設立推進議員連盟として1997年11月に発足し、現在は85名の超党派の議員で構成されています。

新聞・インターネットニュース

	日付	タイトル、見出しなど
河北新報	4月1日	長引く休校電話相談続々
NHK NEWS WEB	4月23日	臨時休校で子どもの相談相次ぐ
しんぶん赤旗	4月24日	全国のチャイルドライン 子どもの相談急増
毎日新聞	4月26日	15歳のニュース 今月のニュースチェック 4月のポイント 助けが必要な、あなたへ届け
朝日新聞	4月29日	「孤独」「経営が」「夫が」悩み相談続々、受け手懸命
岐阜新聞	5月12日	今こそ悩み聞きたいけど... 電話相談、苦渋の活動停止
福島民友	5月26日	「チャイルドライン」相談件数増! 学校休校や日常の変化影響
NHK NEWS WEB	5月27日	休校 子どもからの相談 6割がネガティブな感情
朝日新聞デジタル	5月28日	学校再開しても...しんどい子の負担感「目配りして」
NHK NEWS WEB	5月29日	休校明け 子どもの心のケアを
東京新聞	6月1日	学校再開、悩みの相談聞きます「その子のペースを見守って」
Yahoo! ニュース	6月1日	相談窓口情報掲載
SankeiBiz	6月8日	長期休校ストレスで自殺・いじめリスク高 子供の変化に目配りを
東京新聞	6月10日	自殺増える長期休み明け「不安抱え込まず相談を」
毎日新聞	6月14日	新型コロナ「寝つけない」が2割 休校でストレス 小中高生に調査 /東京
障害者ドットコムニュース	6月23日	学校再開で子どもがストレスを抱えていたら?~心のケアはどうする?
中日新聞	6月25日	コロナ禍で県内の子ども電話相談急増
毎日新聞	7月2日	休校明け、子どもへの接し方は? 変調あったら気にかけて
産経新聞	7月2日	異例の学校生活にストレス
毎日新聞	7月7日	こんな時どうするQ&A 新型コロナ 休校明けの子ども、接し方は? 変調あったら気にかけて /奈良
Yahoo! ニュース	8月18日	「学校ムリでもここあるよ」夏休み明けの居場所を紹介
NHK 総合【週刊まるわかりニュース】	8月29日	気づいて!子どもの“ストレス”
ハフポスト日本版	9月28日	相談窓口特集
ABEMA Prime	9月28日	相談窓口特集
47NEWS	10月20日	悩み相談電話 もっと知って 鎮西学院高にコラボ自販機
NHK NEWS WEB	11月29日	チャイルドラインにコロナの相談
NHK NEWS WEB	12月12日	コロナ感染拡大「チャイルドライン」などへの相談相次ぐ
NHK NEWS WEB	12月23日	子どもの自殺大幅増加 コロナ禍で何が
読売中高生新聞	1月15日	長期化心の不調も
朝日小学生新聞・朝日中高生新聞	1月下旬~2月	
毎日新聞	2021年2月9日	悩み多き子どもの本音
読売新聞	2021年2月27日	自分守って「SOSの授業」
朝日新聞	2021年3月7日	
名古屋朝日新聞 愛知岐阜三重版	2021年3月15日	相談窓口情報掲載
名古屋朝日新聞	2021年3月16日	
産経新聞 ネットニュース	2021年3月16日	
中日新聞	2021年3月16日	相談窓口情報掲載
産経新聞	2021年3月17日	小中高生自殺最多 499人

雑誌・書籍・刊行物・資料

【廣済堂あかつき株式会社】教材ノート「My Compass 365」		相談窓口情報掲載
全家研月刊誌「Poppy f」(7月号、8月号、9月号)		チャイルドライン×月刊ポピー
BLUE♡HEART	9月20日	相談窓口情報掲載
くらしの豆知識	10月	相談窓口情報掲載
STORY12月号	10月30日	体育会系男子ダンタイムマと考えた「子どものメンタルケア」特集での「チャイルドライン」連絡先掲載
14歳の世渡り術「死にたい」「消えたい」と思ったことがあるあなたへ	11月20日	相談窓口情報掲載
【学研】中学保健体育	1月20日	相談窓口情報掲載
学校図書館本「知っておきたい 新しい生活様式」(あかね書房刊)	3月	相談窓口情報掲載

会員数

会員数 正会員：個人 37名 団体 71名 支援会員：個人 10名 団体 3名

組織体制

■代表理事

小林 純子 NPO 法人チャイルドラインみやぎ代表理事
宮城県社会的養護自立支援事業支援コーディネーター

竹村 浩 認定 NPO 法人チャイルドヘルプライン MIE ネットワーク専務理事・事務局長

■常務理事

佐々木 一憲 チャイルドラインいわて代表

平井 貴美子 チャイルドラインおおい代表

■理事

上野 和子 NPO 法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長

金子 由美子 NPO 法人さいたまユースサポートネット副代表

後藤 幾子 NPO 法人みやぎ子ども文化センター理事
みやぎ女性自立活躍支援ネットワーク代表世話人

関戸 真紀 いずみこども AID 役員

高木 眞理子 子ども夢フォーラム代表

高橋 弘恵 NPO 法人チャイルドラインあいち専務理事

田野 浩美 せたがやチャイルドライン運営委員長

外村 まき NPO 法人チャイルドライン京都コロナ対策アドバイザー
京都府人権教育啓発懇話会委員

中村 幸恵 NPO 法人子ども劇場千葉県センター理事

中村 尊 NPO 法人チャイルドライン・ながさき共同代表
NPO 法人フリースクール全国ネットワーク代表理事

■監事

鈴木 綾 チャイルドラインこおりやま副理事長
こおりやま子ども若者ネット代表

西崎 宏美 認定 NPO 法人子どもシェルター モモ 専務理事

財務状況 2020年度

経常収益	受取会費	2,050,000 円
	受取寄付金	13,127,435 円
	受取補助金	32,964,464 円
	受取助成金	2,183,595 円
	事業収益（資料代）	4,988,841 円
	（協賛金）	1,000,000 円
	その他	69,566 円
	経常収益計	56,383,901 円

経常費用	チャイルドライン事業	29,606,774 円
	アドボカシー事業	18,470,043 円
	管理費	3,323,814 円
	経費費用計	51,400,631 円

2020 発行情紹介



フリーダイヤル 10 年 チャイルドラインに届いた声から 子どもの状況を考察する

フリーダイヤル実施 10 年間の累積データ 500 万件を整理し、ツール別、性別、主訴別などをクロス集計し、深刻な主訴を中心に名古屋大学大学院教育発達科学研究科内田良准教授のご協力を得て分析し、まとめました。(2021 年 3 月 25 日発行)

総論

10 年のデータから見える、子どものたちの声
”数字“で見る 10 年 ”グラフ“で見る 10 年

分析編

いじめ、虐待、ネットトラブル、性の多様性、希死念慮

座談会

フリーダイヤル 10 年のデータから見た子どもたち
～内田良さんを迎えて～

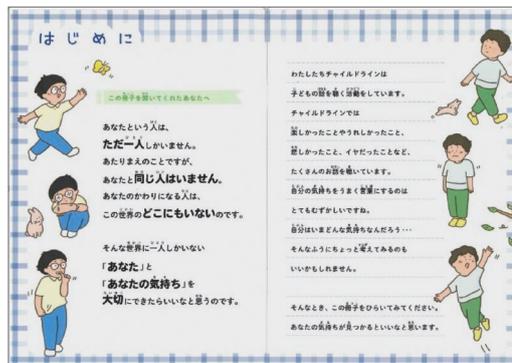
声をつないでいく

名古屋大学教育発達科学研究科 内田良准教授



みんなだいじなあなたの気持ち

自己肯定感を高めることを目的としたアウトリーチプログラム実施の際に配布するための冊子を作成しました。



リーフレット

チャイルドラインの活動をご理解いただき、支援していただくためのリーフレットを一新しました。

あさのあつこさん(作家)、湯浅誠さん(社会活動家、東京大学特任教授、認定NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長)、内田良さん(名古屋大学教育発達科学研究科准教授)から応援メッセージをいただきました。

多くの方のご支援・ご協力で心より感謝申し上げます。

チャイルドライン支援センターはみなさまからのご寄付、会員からの会費、補助金、助成金で運営しています。また子どもたちへのカード広報など、活動に賛同する多くの企業、社員のみなさまとの協働・ボランティアにより活動を支援いただいています。

法人、団体の皆様のみ掲載（敬称略、順不同）

寄付・協賛

日本電信電話株式会社	MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ	一般社団法人ほのぼの運動協議会
株式会社NTTドコモ	ソフトバンク株式会社	横浜雙葉学園同窓会 レジナ会
KDDI株式会社	一般財団法人 全国学生保障援助会	株式会社ラングランズ
株式会社オプテージ	カナサシコドモクリニック	リンベル株式会社
gooddo株式会社	東京海上ビジネスサポート株式会社	若松測量設計株式会社
コクヨ株式会社	吉村小児科	リンナイ株式会社
エスピー食品株式会社	特定非営利活動法人国際子ども権利センター	世界のママが集まるオンラインカフェ
サントリーホールディングス株式会社	株式会社おそうじ革命	鎮西学院高等学校
株式会社佐藤建設	ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社	東邦ガス株式会社
三和グループ社会貢献倶楽部	チャイルドライン支援議員連盟	株式会社ヘンプフーズジャパン
公益社団法人日本フィランソロピー協会 （東京海上 Share Happiness 倶楽部）	つながる募金（ソフトバンク）	江崎グリコ株式会社
シクミオ株式会社	株式会社ディ・エフ・エフ	医療法人キュレスト山森小児科
宗教法人 真如苑	日本碍子株式会社	株式会社ユサブル
	津川診療所	

補助

厚生労働省「自殺防止対策事業」

助成

公益財団法人JKA「競輪補助事業」
日本労働組合総連合会「連合・愛のカンパ」

後援

「2020チャイルドライン全国キャンペーン」
「2021チャイルドライン全国キャンペーン」
内閣府
文部科学省
厚生労働省
総務省

チャイルドライン支援議員連盟
社会福祉法人全国社会福祉協議会
公益社団法人日本小児科医会
公益社団法人日本医師会
一般社団法人いのちの電話
特定非営利活動法人日本NPOセンター

協力

エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
NTTコムマーケティング株式会社
株式会社博報堂
株式会社ピーアンドピービューロー
株式会社三門印刷所
株式会社ジーニー
株式会社プランニング・ヴィ
イノウデザイン株式会社
有限会社トランスプロジェクト
有限会社考学舎
株式会社アイテム
有限会社萌文社
ツナガルラボ

江戸川子どもおんぶず
雨宮国際特許事務所
税理士法人未来総合会計事務所
社会保険労務士法人CANAL

〈子ども広報〉

東京ボランティア・市民活動センター
公益社団法人日本小児科医会
一般財団法人児童健全育成推進財団
認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
#学校ムリでもここあるよキャンペーン
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社
株式会社ボブラ社

茨城県教育委員会
兵庫県教育委員会
香川県教育委員会
佐賀県教育委員会
熊本県教育委員会
熊本市教育委員会
沖縄県教育委員会
東京海上日動火災保険株式会社
（東京海上Share Happiness倶楽部）社員のみなさま
東京海上ビジネスサポート株式会社 社員の皆様
ゼネラル・ビジネス・サービス株式会社 社員の皆様

編集後記

チャイルドライン活動には大きく2つの役割があると考えています。

ひとつは、毎日誰かが待っている子どもにとっての一つの居場所として、訪ねてきたひとりひとりの子どもに寄り添い、心の声にも耳を傾け、「あなたはひとりじゃない」と感じてもらうこと。

もうひとつは、その子たちが感じていること、伝えたいこと、打ち明けてくれたことなど、様々なことを通して見えてきた子どもをとりまく諸問題を社会に発信し、真に子どもの権利が守られる社会づくりに寄与すること、です。全国68カ所で受信した膨大なデータから子どもの今をどこまで浮き彫りにできるか、悩みながらの作業を毎年行っていますが、特に2020年からのCOVID-19の世界的流行は、子どもたちの環境を大きく変えた事件であり、今後も引き続き検証していきたいと思います。

「2021チャイルドライン年次報告」の発刊に当たり、チャイルドラインを支援してくださっている皆様、チャイルドライン実施に携わってくださっている皆様に、心より感謝申し上げます。

チャイルドライン支援センター年次報告作成チーム

2021チャイルドライン年次報告

CHILDLINE ANNUAL REPORT 2021

発行日 2021年8月31日 第1版 第1刷

発行：特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター（認定NPO）

〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5階

TEL：03-5946-8500 FAX：03-5946-8501

E-mail：info@childline.or.jp URL：<https://childline.or.jp>

表紙・レイアウト・デザイン：イノウデザイン株式会社

印刷製本：株式会社グラフィック

※無断で複製・転載することを禁じます

※「チャイルドライン。」および「チャイルドライン・キャラクター」は特定非営利活動法人チャイルドライン支援センターの登録商標です。



チャイルドライン®



公益財団法人JKA
競輪補助事業 <https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>